群馬県前橋市

伊　勢　遺　跡

開発行為（ｶﾞｿﾘﾝ・ｽﾀﾝﾄﾞの建設）に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南に貫流する利根川の清流は「水と緑と詩の町」を潤し、かっては「糸の町」として養蚕製糸で栄えてきました。今人口２８万を擁し生涯教育都市を目指し教育文化・商工業の調和のある街づくりが進められています。

伊勢遺跡の所在する上長磯町は前橋市の中心市街地から国道50号線を東へ5.0Km程の水田地帯にある。近年、国道50号線の拡巾工事等にかかる埋蔵文化財の調査などで遺跡の確認がされている。

この調査は、民間開発行為によりガソリンスタンドの建設に先がけて埋蔵文化財の緊急発掘調査を実施したものであります。

調査では平安時代の住居跡11軒・溝跡９条・井戸跡２ケ所・土坑53ケ所・ピット31ケ所を確認したほか土師器1657点、須恵器 259点、鉄製品５点などを検出し記録保存いたしました。

この調査報告書を刊行するにあたり事業主である昭和シェル石油株式会社を始めとする関係機関各方面の多くの方々の御理解と御協力を得たことに対して厚く御礼申し上げます。

平成　３年　３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　遠　藤　次　也

例　　言

1　本書は都市計画法第２９条の開発行為（宅地造成事業実施）の許可に先がけた開発予定地の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、立合者　前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　遠　藤　次　也）の立ち合いのもとに、委託者　昭和シェル石油株式会社関東支店（東京都千代田区丸の内二丁目７番３号支店長八田昌彦）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町２１１－１　代表取締役　須　永　眞　弘）が実施した。

3　調査担当者　新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団　発掘調査係員）
　　荻野博巳（スナガ環境測設株式会社　調査員）

4　遺　跡　名　伊勢遺跡　略称１Ｆ－２

5　所　在　地　前橋市上長磯町296-1 番地　外　地内

6　調査期間　発掘　平成　2 年　5 月 21 日～平成　2 年　6 月 22 日
　　整理　平成　2 年　6 月 22 日～平成　3 年　3 月 25 日

7　調査面積　700 m²

8　出土遺物は、前橋市教育委員会に保管する。

9　本書は、調査団の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財調査部（専務取締役兼部長　金子正人）が作成に当り、執筆・荻野博巳（伊勢遺跡発掘調査事務所長）、校正・金子正人、編集・須永眞弘、測量図書の整理校正を勝田貞幸、遺物の復元・実測・計測を佐々木智恵子・角田朱美、遺構のトレースを小林裕美、写真製版を鈴木赳夫、文章清書を須永薫子、内業事務を須永豊が担当した。

10　測量・調査計画を須永眞弘（測量士　第 52614号）が行い、調査の指揮指導を荻野博巳、遺構・遺物の写真撮影を荻野博巳・勝田貞幸（調査助役）が当った。測量と測量作業指導を板垣宏（測量課長）・測量を勝田貞幸・樺沢高幸（測量主任）・佐々木智恵子・角田朱美が当った。発掘調査の安全管理は石島正二（総務役）が、作業事務を柴崎信江が担当した。

11　調査に協力を戴きました昭和シェル石油株式会社関東支店を始め、地元の方々及び調査並びに整理に際して指導、助言を賜った群馬県埋蔵文化財調査事業団飯塚誠氏を始め、各方面の方々に深甚なる感謝を申し上げます。

12　調査に参加した方々（順不同）
　　石川サワ子　　内山恵美子　　中川類子　　小野沢はつ江　　深沢千代
　　山崎勘治

凡　　例

1　遺構名・略称
　　遺構名と略称は次の通りとした。
　　土師器住居跡　H　　井戸跡　I　　ピット　P
　　溝　遺　構　W　　土　坑　D

2　実測図の縮尺
　　全体図 S=1/300　住居跡S=1/60　井戸跡S=1/60　ピットS=1/60
　　溝遺構S=1/60　土坑S=1/60　竈　S=1/30　遺物　S=1/3

3　挿入図

国土地理院発行の５万分の１「前橋」を使用した。

4　遺跡の位置・基準等

基 準 点　　国土地理院三角点及水準点を照合済み

A-0 地点　　第Ⅸ系　座標値 x=41,608.000m　y=-63,718.000m

水 準 点　　BM_1 H=88.000m

等 高 線　　10 cm

グリッド　　4 m 間隔

5　土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」による。

目　　次

序

例言

凡例

目次

第１章　調査の概要……1

　　1　調査に至る経緯……1

　　2　発掘調査の経過……1

　　3　標準堆積土層……2

第２章　遺跡の立地と環境……2

第３章　遺構と遺物……4

　　（１）住居跡……4

　　（２）溝遺構……7

　　（３）井戸跡……9

　　（４）土　坑……9

　　（５）ピット……12

第４章　まとめ……14

出土遺物観察表……16

遺構実測図……第 3～22図

遺物実測図……図 1

図　　版……図版1 ～ 6

全体平面図……第23図

第１章　調査の概要

１ 調査に至る経緯

伊勢遺跡は、宅地造成工事に伴う都市計画法２９条の開発行為の許可にさきがけ前橋市宅地開発指導要綱（昭和４８年前橋市告示第１０号）第９条（文化財保護）の規定により開発事業者昭和シェル石油株式会社（東京都千代田区丸の内二丁目７番３号支店長八田昌彦）から市教育委員会に事前協議があり、確認調査を行ったところ平安時代の住居跡及び溝跡を確認した。開発事業者と協議調整のうえ平成２年５月21日から発掘調査を実施することになり、前橋市教育委員会のもとに組織している前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立ち合い指導のもとにスナガ環境測設株式会社で発掘調査に着手した。

２ 発掘調査の経過

経過は次の通りである。（調査日誌抄）

平成２年５月21日　作業事務所設置．機材等の搬入

22日　水準点（ＢＭ）．基準点座標杭の設置．グリット杭設定開始

23日　重機にて表土掘削作業開始．ジョレン掻き．プラン確認作業開始

25日　住居跡（１号～11号）．溝跡．土坑の各調査開始．写真撮影開始

28日　平面．断面図の測量開始．

30日　ピット調査開始

６月１日　住居跡調査開始．全体平面図Ｓ＝１：１００作成開始

２日　国道部分遺構の出土状況等について県事業団飯塚誠氏．遠藤調査団事務局次長．新保調査担当の来跡をいただき打ち合わせをする

５日　井戸跡調査開始

12日　カマド調査開始

18日　調査現場冠水し排水ポンプ３台で排水す

21日　遺物上げ開始．土錘出土

25日　調査現場冠水し排水ポンプ３台で排水す

28日　全体遺物上げ．全体断面図標高入れ（測量）．調査終了

整理作業

６月29日　遺物の洗浄・注記．測量図面の整理作業開始．記録写真の整理・住居跡の原稿執筆作業開始．遺物の接合作業開始

７月９日　測量図の製版カメラによる縮小作業を行う．住居跡床面積の図上計測を行う．接合遺物の石膏入れ作業開始．遺物（土器）の実測図化作業開始．遺物の実測図の製版カメラによる 1/3縮小作業開始．住居跡平面図・断面図

の製版カメラによる 1/3縮小作業開始

1月14日　溝遺構などの報告書原稿執筆・編集作業開始

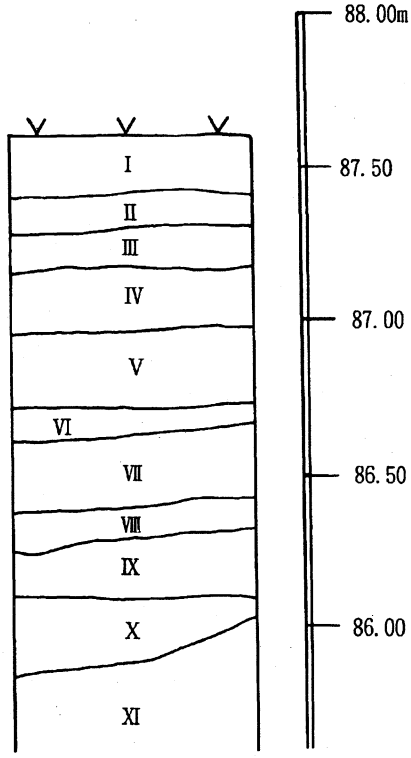
3月8日　遺物写真撮影作業を行う

24日　報告書原稿執筆・編集作業完了

25日　報告書原稿印刷

3 標準堆積土層

第 1 図　標準堆積土層



I	耕作土	
II	灰褐色土層	砂質で粘性がなくサラサラしている
III	灰褐色土層	砂質不透水層で僅かB軽石を含み酸化している
IV	灰褐色土層	細砂で粘性がなく．硬く締まる
V	褐色土層	微砂で粘性がなく．硬く締まる
VI	暗褐色土層	細砂で粘性がなく．硬く締まる
VII	暗褐色土層	微砂で粘性がなく．硬く締まる
VIII	褐色土層	微砂で粘性がなく．硬く締まる
IX	褐色土層	細砂で粘性がなく．硬く締まる
X	礫層（川底）	1 ～ 15cm の礫・川石が点在する
XI	暗褐色土層	微砂の層

第 2 章　遺跡の立地と環境

伊勢遺跡が所在する前橋市上長磯町 296-1番地は、前橋市の中心市街地から東へ約5Kmの国道50号線際にあり、周辺は水田地帯である。近年は国道沿線に宅地化が進む地域でもある。

かつては利根川がこの地を東南流した古利根川の氾濫源である。北300mを東南に流下する桃木川は古利根川の流路であると言われている。

古代の上長磯は、平安時代の「和名抄」にある芳賀・桂萱・真壁・時沢など九郷からなる勢多郡の桂萱郷に属している。

桂萱郷は、奈良後期の多賀城跡から勢多郡の桂萱郷名の木簡が出土するなど古くから見られる地名である。この桂萱郷は、東片貝・西片貝・三俣・野中・長磯などが比定されている。

中世は上杉氏所領目録（彦部文書）から長安（ながやす）村の地名で大胡の庄に記録されている。近世江戸初期の長磯村は元禄期に上・下長磯村に別れ、明治22年から木瀬村の大字上長磯となり、昭和30年に木瀬村の合併によって前橋市の町名となった地域にある。

第２図　周辺の遺跡一覧図　S=1:50,000

①伊勢遺跡　②大塚古墳　③茶木田遺跡　④八幡山古墳
⑤二子山古墳　⑥不二山古墳　⑦大日塚古墳　⑧端気遺跡群
⑨西新井遺跡　⑩芳賀西部団地遺跡　⑪芳賀東部団地遺跡　⑫芳賀北部団地遺跡
⑬芳賀北曲輪遺跡　⑭引切塚遺跡　⑮青柳寄居遺跡

第３章　遺構と遺物

（１）住居跡

１号住居跡（第３図、図版１）

調査区の北壁寄りＣ－５～６グリッドに位置し、Ｄ－５・６・８・47・48土坑と重複して確認する。Ｄ－８によって、僅かに立ち上がりが確認されただけで、全体は住居範囲が僅かに残る程度である。

遺物は住居に伴うと思われる土師器坏片が１点検出されている。

２号住居跡（第３図、図版１）

調査区の南壁のＩ－１グリッドに位置する。大部分が調査区域外にあるため僅か北壁部分を確認したものである。調査範囲で北壁側長さ3.1mを測る。

遺物は出土していない。

３号住居跡（第４・５図、図版１）

調査区の南壁、Ｉ－３、Ｊ－２～３グリッドに位置し、４号住居跡と一部重複し南壁側は一部調査区域外である。新旧関係は４号住居跡を本住居竈が切っていることから本住居が新しいと思われる。確認面は耕作面より 74cm 程掘り込んで確認された。覆土は褐色砂質土が堆積している。

形状は隅丸方形を呈すると思われる。南北方向は調査区域外に達し全長は不明だが実測値2.8m程を測る。東西方向は3.3m程を測る。床面までの掘り込み 10cm 程を測る。住居跡の主軸方向は不明である。床面は平坦で遺物は少ない。測定できる床面積は8.75m²程を測る。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁側に位置しＨ－４号住居跡と重複し焚口付近には構築材と思われる石が見られるが残りは良くない。竈の全長1.0 m 程、焚口部幅は40cm程を測る。

竈の主軸方向はＮ－122°－Ｅを測る。

遺物は土師器、須恵器片などを僅か検出している。

４号住居跡（第５図、図版１）

調査区の南壁Ｊ－３～４グリッドに位置し、３号住居跡竈と一部重複する。南壁側は一部調査区域外である。重複関係は本住居の方が古いと思われる。確認面は耕作面より66cm程を掘り込んで確認された。覆土は褐色砂質土が堆積している。

形状は隅丸方形を呈するものと思われる。東西方向約2.9m、南北方向は調査区域外に達し実測値は2.0m程を測る。床面までの掘り込みは10cm程を測る。主軸方向は不明である。

床面は平坦で遺物は少ない。測定できる床積面は4.49m²程を測る。ピット・壁溝は確認されなかった。竈は確認されていないが調査区域外にあると思われる。

遺物は土師器片を１点検出している。

５　号　住　居　跡　（第６・７図、図版２）

調査区の南壁Ｌ－９、Ｍ－９～10グリッドに位置する。確認面は耕作面より60cm程掘り込んで確認された。６号住居跡と重複し南壁側は一部調査区域外にある。新旧関係は本住居跡が６号住居跡を切って作られているので本住居が新しいと思われる。

住居の形状は方形を呈し、長軸（東西方向）が約３ｍ、短軸（南北方向）が約2.4mを測る。床面までの掘り込み20cm程を測る。住居跡の主軸方向はＮ－86°－Ｅを測る。床面は平坦で遺物は少ない。床面積は約5.73m²を測る。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁側のやや北寄りに位置し半円状に張り出して構築している。竈の全長約60cm、焚口幅は約50cmを測る。残存状況はよくない。竈の主軸方向はＮ－92°－Ｅを測る。竈の覆土は褐色砂質土が堆積している。遺物は土師器片を検出している。

６　号　住　居　跡　（第７図、図版２）

調査区のＬ－９～10、Ｍ－９～10グリッドに位置する。確認面は耕作面より50cm程掘り込んで確認された。覆土は褐色砂質土が堆積している。５号住居跡、７号住居跡と重複している。新旧関係は５号住居跡より古いと思われ、７号住居跡とは竈の残り具合から本住居跡が古いと思われる。

住居の形状は長方形を呈し、長軸（東西方向）約４ｍ、短軸（南北方向）約2.6m、床面までの掘り込みは約20cm程を測る。住居跡の主軸方向はＮ－93°－Ｅを測る。床面は平坦で遺物は少ない。床面積は約8.22m²を測る。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁側に位置すると思われるが、７号竈と重複し形状は不明である。

遺物は土師器片を検出している。

７　号　住　居　跡　（第６・７図、図版２）

調査区の南壁寄りＭ－10グリッドに位置する。確認面は耕作面より50cm程掘り込んで確認された。覆土は褐色砂質土が堆積している。６号住居跡と一部重複している。新旧関係は本住居が新しいと思われる。

住居の形状は東西に細長い隅丸方形で長軸（東西方向）約3.2m、短軸（南北方向）約2.3mを測り、北西隅は不整形である。床面までの掘り込みは14cm程を測る。住居跡の主軸方向はＮ－87°－Ｅを測る。床面は平坦で遺物は少ない。壁溝は確認されなかった。竈付近にピット状の掘り込みが見られた。

竈は西壁側に位置し６号住居跡と重複している。形状は楕円形で全長約85cmを測る。残りは良くなく竈の形態を成していない。主軸方向は不明である。

遺物は土師器片を数点検出している。

８ 号 住 居 跡 （第８・９図、図版２）

調査区の東壁寄りＭ－11～12、Ｎ－11～12グリッドに位置する。確認面は耕作面より50cm程掘り込んで確認された。Ｗ－６・７号とＤ－52と一部重複している。

住居の形状は隅丸方形で長軸（東西方向）約2.9m、短軸（南北方向）約2.5mを測る。床面までの掘り込みは約６cmを測る。住居跡の主軸方向はＮ－60°－Ｅ方向と思われる。床面は平坦でＷ－７の痕跡を僅かに残す。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁側に位置し全長約85cmを測り、竈の主軸方向はＮ－76°－Ｅを測る。竈の残りは良くなく形態が僅かに残る程度である。竈の覆土は褐色、暗褐色砂質土が堆積している。遺物は土師器、須恵器片を検出している。

9号 住 居 跡 （第10・11図、図版２）

調査区の北壁側Ｊ－８～９、Ｋ－８～９グリッドに位置する。確認面は耕作面より50cm程掘り込んで確認された。覆土は暗褐色砂質土が堆積している。Ｗ－８・９、Ｄ－37・53、Ｐ－30の一部とＰ－31と重複している。

住居跡の形状は長方形を呈し長軸（東西向方）約4.7m、短軸（南北方向）約2.9mを測る。西壁側は10号住居跡と重複しているが範囲は明確にできない。床面までの掘り込みは約12cm程を測る。住居跡の主軸方向はＮ－85°－Ｅを測る。床面は平坦で遺物を多数出土している。床面積は約7.94㎡を測る。壁溝は確認されなかった。住居跡か溝に伴うと思われるＰ－31と他に一部重複しているＰ-30 、Ｄ-37•53、Ｗ-8•9等が確認されている。

竈は南壁やや東寄りに位置する。全長約90cm・焚口幅約60cmを測る。竈の主軸方向はＮ－ 176 °－Ｅを測る。覆土は焼土粒、炭化物を含む灰褐色砂質土が堆積している。残りはよくない。遺物は土師器片や須恵器片などを多数検出している。

１０ 号 住 居 跡 （第10・11図、図版２）

調査区の北壁側Ｋ－９グリッドに位置する。確認面は耕作面より47cm程掘り込んで確認された。覆土は褐色、灰褐色砂質土が堆積している。９号住居跡Ｗ－８・９号と重複する。住居跡の形状は重複によりはっきりしないが竈範囲だけが検出できた。

竈は東壁側に位置し全長約190cm 、焚口幅70cm、燃焼部長110cm 、煙道部長80cmを測り、煙道部の立ち上がり角度はほぼ垂直気味に作られている。竈の主軸はＮ－94°－Ｅである。覆土は焼土、炭化物を含む灰褐色砂質土が堆積している。

残存状況は竈のみ確認された住居跡で竈の残存状況は比較的よかった。他の遺構との重

複関係は不明である。

遺物は土師器片を僅か検出している。

11 号 住 居 跡 （第12図、図版２）

調査区の南壁寄りＪ－５～６グリッドに位置する。小トレンチ掘りにより確認した。確認面は耕作面より52cm程掘り込んでいる。覆土は褐色砂質土が堆積しいる。東壁側は調査区域外のため全体は確認できなかった。

住居跡の形状ははっきりしないが西壁側はなだらかな落ち込みによって切られている。床面での掘り込みは確認面から約32cmを測る。床面は平坦で中央付近に炭化物範囲が見られ土師器、須恵器片を検出している。

（２） 溝 遺 構

１ 号 溝 （第14・23図、図版４）

Ｃ－２～３、Ｄ－２～５、Ｅ－４～８、Ｆ－６～７グリッドに位置する。

形状は調査範囲で全長約 22m、幅約 3.6m 、深さ約 1.2m を測り南東から北西方向に高低差を 10cm 程持ってのびる。断面形は緩やかな放物線形に立ち上がる。

遺物は確認面で砥石１点を検出している。

２ 号 溝 （第14・23図、図版４）

Ｂ－５、Ｃ－５、Ｄ－６～７グリッドに位置する。Ｃ－５グリッドでＬ字状に曲る。途中Ｄ－５、Ｄ－11、Ｄ－51の土坑によって切られ、東側の落ち込みに続いている。

形状は調査範囲で全長約 12.5m、幅約 30cm 、深さ 16cm を測る。高低差は北側と東側ではほとんど差はない。断面形は梯形である。

遺物はわずかに土師器片を検出している。

３ 号 溝 （第14・23図、図版４）

Ｃ－４～５、Ｄ－５グリッドに位置し、Ｓ字状にのび西側はＤ－２、東側はＤ－51に接して途切れている。

形状は調査範囲で全長約 7.4m 、幅30cm～40cm、深さ６cm程を測り、高低差はほとんどない。断面形はやや梯形を呈している。

遺物は出土していない。

４ 号 溝 （第14・23図、図版４）

Ｇ－１～２、Ｈ－１～３、Ｉ－２～３グリッドに位置する。溝は途中Ｈ－２グリットでピットＰ－12・28と土坑Ｄ－23・43が重複し、Ｉ－３グリットの土坑Ｄ－41まで伸て確認

されている。新旧関係は不明。溝の形状は調査範囲で全長約 11.2m、幅約 70 ～ 80cm、確認面から底の深さは北西側(A-A')約 26cm、南東側(C-C')約40cmを測る。溝底の高低差はC-C'側(H=86.650m) からA-A'側(H=86.450m) への約14cm (河床勾配 i =8.2‰) を測る。断面形はやや梯形を呈している。

遺物は土師器片を数点検出している。

5 号 溝 (第 14・15・23 図、図版 4)

K－7～13、L－7～12グリッドに位置する。トレンチ試掘によって形状範囲を確認したもので全長約 18.5m、幅は東側で約120cm、西側で約 200cmを測る。確認面から溝の深さは、西側(A-A')約55cm・東側(C-C')約36cmを測る。溝底の高低差は東側C-C'(H=86.550m) から西側A-A'(H=86.350m) へ約15cm (河床勾配 i =8.1‰) を測る。断面形はおおむね放物線形を呈している。

遺物は土師器、須恵器片を検出している。

6 号 溝 (第9・15・23図)

M－11、N－11グリッドに位置する。8号住居跡と重複している。新旧関係は不明。形状は調査範囲で全長約3.9m、幅は北西側で60cm程、南東側で幅40cm程を測る。

確認面から溝の深さは、北西側(A-A')約34cm・南東側約10cmを測る。溝底の高低差は東側(H=86.740m) から北西側A-A'(H=86.500m) へ約24cm (河床勾配 i =61.5 ‰) を測る。断面形はやや梯形を呈している。

遺物は出土していない。

7 号 溝 (第9・23 図)

M－11グリッドに位置する。H－8号住居跡セクションによって一部を確認した。形状は幅が50cm、深さ6cm程を測る。断面形はおおむね梯形を呈する。

遺物は出土していない。

8 号 溝 (第15・23図)

K－9グリッドに位置する。H－10号住居跡と重複しW－5・9号溝と並走して確認されている。形状は幅約1.4m、深さ約40cm、長さ不明。10号住居跡との新旧は不明である。

遺物は出土していない。

9 号 溝 (第15・23図)

K－9グリッドに位置する。H－8・9号住居跡と重複し、W－5・8号溝と並走して確認されている 形状は幅約 1.3m で、深さ約45cm、長さは不明。住居跡との新旧は不明。遺物は出土していない。

（３）井　戸　跡

１　号　井　戸　（第13図、図版３）

Ｄ－８グリッドに位置する。耕作面から確認面まで 58cm 程掘り込んで確認した。遺構の大部分は調査区域外にある。

形状は二段に落ち込みが見られる。一段目はなだらかに30cm落ち込んで数個の石が検出され二段目の落ち込みには多数の石が投げ込まれたような形で検出された。径は不明だが深さは確認面より55cm程を測り、円形の井戸と思われる。

覆土は褐色砂質層とラミナ状の砂層で埋まっている。遺構全体は不明である。

遺物は石の他は検出していない。

２　号　井　戸　（第13図、図版３）

Ｌ－11～12、Ｍ－11～12グリッドに位置し、耕作面から確認面まで 45cm 程排土して確認された。形状は確認面で直径が東西約3.5m・南北約3.2mのおおむね円形状・深さ約75cmを測る擂鉢状を呈し、中央部の落ち込みが径約65cm、深さ70cm程を測り湧水溜め部分が掘り込まれている。覆土は褐色砂質土で埋まっており中央部の掘り込みは砂礫で埋まっている。遺物は土師器、須恵器破片など多数を検出している。

（４）土　坑

出土遺物について

土師器の破片を検出した土坑

Ｄ－７・８・10・13・16・19・20・21・22・23・26・31・32・34・40

土師器、須恵器の破片を検出した土坑

Ｄ－27・35・37・38・41・43・44

土坑一覧表　その１　　（　）は推定を表す

土坑ナンバー	遺構位置（グリッド）	形状寸法（cm）				重複	備考
		長径×短径	深	形状	底面		
1	Ｂ－４	195×130	20	楕円	平坦		
2	Ｃ－３・４	138×98	32	〃	〃		Ｗ－３と接する
3	Ｃ－３・４	136×133	20	円	〃		
4	Ｃ－４ Ｄ－４	115×100	12	楕円	〃		

土 坑 一 覧 表 その2　　（　）は推定を表す

土坑ナンバー	遺構位置（グリッド）	形状寸法（cm） 長径×短径	深	形状	底面	重複	備考
5	B－5 C－5	108×94	25	円	〃		
6	C－5	56×52	30	楕円	中央と東壁下側に一段掘込がった み有り		
7	D－5	100×96	12	円	平坦		
8	C－5・6	130×	32	〃	平坦、中央に窪み有り	D－47 D－48	新旧関係不明
9	C－6	120×120	15	〃	平坦	D－10 D－46	D-9 →D-10→D-46の順に新しいと思われる
10	C－6	95×	12	〃	〃	D－9 D－46	D-9 より古く、D-46より新しいと思われる
11	D－6	124×	15	〃	平坦、中央に2ケ所の窪み有り	D－12 W－2	D－12より古くW－2より新しい
12	D－6	84×80	34	〃	平坦	D－11 D－51 W－2	D－11、W－2より新しくD－51より古い
13	C－7	110×104	22	〃	〃		
14	D－7	120×110	16	〃	〃		
15	D－6	86×82	24	〃	〃		
16	G－1	90×72	30	〃	平坦中央に窪み有り		
17	G－1・2	80×68	13	〃	西側より東側へ緩やかに傾斜する		
18	G－1 H－1	120×105	35	楕円	平坦、東壁寄に窪み有り		
19	H－1	120×113	40	円	東側に一段下る円形の掘込み有り		
20	H－0・1 I－1	156×135	30	楕円	平坦		
21	G－2	85×78	20	円	〃		
22	G－2	90×87	23	〃	放物線形		
23	H－2	132×115	16	〃	平坦		

土 坑 一 覧 表 その3　　（　）は推定を表す

土坑ナンバー	遺構位置（グリッド）	形状寸法（cm） 長径×短径	深	形状	底面	重複	備考
24	H－2	80×72	10	〃	平坦、西壁側に窪み有		
25	H－1	90×84	16	〃	二段に落ち込む	D－42	D－42が新しいと思われる
26	H－2 I－2	141×	26	楕円	東壁側からなだらかに落ち込む	D－29	新旧不明
27	H－1 I－1	123×	20	〃	平坦	D－28 D－29	〃
28	H－1・2 I－1・2	106×	18	〃	〃	D－27 D－29	〃
29	I－1・2	140×	40	〃	〃	D－26 D－27 D－28	〃
30	H－2・3	130×127	20	円	〃		
31	H－3	113×95	26	〃	〃		
32	I－2	120×	28	〃	〃	D－50	D－50が新しいと思われる
33	H－3 I－3	105×100	18	〃	平坦、窪み有り		
34	H－3・4 I－3・4	145×135	56	〃	平坦		
35	I－4	106×98	40	〃	平坦、凸有り		
36	J－8	85×65	18	楕円	放物線形、窪み有り		
37	J－8	90×80	40	円	平坦、中央に窪み有り		
38	K－8	135×110	50	楕円	平坦		
39	K－9・10	92×92	30	円	二段に落ち込み中央が窪む		
40	I－2	80×80	30	楕円	平坦		
41	I－3	92×82	33	円	平坦		
42	H－1	72×	18	円	放物線形	D－25	D－25が古い
43	G－1 H－1・2	200 ×(120)	37	楕円	〃	W－4	新旧不明
44	H－0	82×	12	円	平坦		

土坑一覧表 その4　　（　）は推定を表す

土坑ナンバー	遺構位置(グリッド)	形状寸法(cm) 長径×短径	深	形状	底面	重複	備考
45	H－0	104×	13	〃	平坦		
46	C－6	132×	10	〃	〃	D－9 D－10	D－9→D－10の順に新しいと思われる
47	C－5・6	(104) ×(92)	20	〃	〃	D－6 D－8 D－48	H－1住居範囲に位置している、新旧不明
48	C－5・6	(98)×	16	〃	〃	D－8 D－47	新旧不明
49	H－0	(108)×	44	〃	〃		
50	I－2	106×100	34	円	〃	D－32	D－32が古い
51	C－5・6 D－5・6	120×110	45	〃	〃	D－12 W－2・3	W－1・2、D－12より新しいと思われる
52	I－2	102×100	45	〃	放物線形		
53	J－9	100×(98)	30	〃	平坦		

（5）ピット

遺構について

ピットの間隔等から掘立柱建物遺構との関連性は少ないものと考えられる。

出土遺物について

土師器、須恵器の破片を検出しているピット　P－10・13・15・16・17・19

ピット一覧表 その1　　単位cm.（　）は推定を表す

No	遺構位置	長径×短径	深	形状	備考
1	G－1	26×18	28	円	底部東壁側に掘り込みあり
2	G－1	54×43	50	〃	底部一段下がった掘り込みあり
3	H－1	25×24	23	〃	底部平坦
4	H－1	30×24	15	〃	底部西壁側に掘り込みあり
5	H－1	30×27	22	〃	底部丸味を持つ
6	H－1	27×23	22	〃	底部丸味を持つ

ピット一覧表 その2　　単位cm.（　）推定を表す

No	遺構位置	長径×短径	深	形状	備考
7	H－1	30×30	40	円	掘り込み中間よりV型に細くなる
8	I－1	28×23	33	〃	東壁側に段差あり
9	I－1	27×24	22	〃	底部平坦
10	I－1	40×30	24	〃	底部平坦
11	H－2	28×23	33	〃	東壁側に段差あり
12	H－2	28×25	55	〃	掘り込み中間よりやや細くなる
13	I－2	40×30	41	〃	U字型に掘り込まれている
14	I－2	36×32	18	〃	掘り込み放物線形
15	I－2	50×47	43	〃	底部平坦
16	I－4	55×46	32	〃	底部平坦
17	I－4	42×37	30	〃	底部平坦
18	K－8	51×44	30	〃	東壁側わずかに掘り込みあり
19	L－8	56×50	33	〃	底部平坦
20	L－8	57×46	6	〃	口径に比べ掘り込みが浅い
21	L－9	64×63	19	〃	底部平坦
22	L－9	60×60	12	〃	口径に比べ掘り込みが浅い
23	L－10	60×53	17	〃	底部放物線形
24	L－10	53×53	18	〃	底部平坦
25	L－10・11	46×39	20	〃	底部平坦
26	K－10	48×40	25	〃	東壁側より窪みながら落込む
27	L－11	58×50	10	〃	浅い掘り込み、東壁側に掘り込みあり
28	H－2	36×29	36	楕円	底部U字形、D－23と接している
29	H－2	40×32	30	円	東西壁側掘り込みあり
30	K－9	28×(27)	32	円	底部中央に掘り込み、H－9住居にかかっている
31	K－9	38×31	20	〃	東壁側がやや窪むH－9住居にともなうものか不明

第４章　まとめ

本遺跡は、赤城山南麓に広がる広瀬川低地帯の沖積地に位置し、広瀬川の氾濫によって形成されたと考えられる微高地上に存在する。耕作土から1.6～1.7mで砂礫層に達する。砂層の中には、B軽石を含む褐色土が含まれている。

調査区からは、氾濫によって埋没したと思われる平安時代の住居跡11軒（ほぼ完全住居３軒、一部不明住居７軒、範囲のみ確認１軒）、溝９条（一部範囲のみ３条）、井戸跡２箇所、土坑53箇所、ピット31箇所が確認された。

（1）住居跡

調査区全体で11軒確認されたが重複や攪乱等により遺存状態が悪く、完掘できた住居は３軒である。他は一部不明や範囲を確認したものである。

遺物は１号・３号・８号・９号・11号住居跡に見られ、土師器の「コ」の字状口縁を持つ甕片や、土師質土器の坏で底部が平底で、体部が緩やかに彎曲するものや、内面黒色処理を施した埦など９世紀から10世紀代にかけての遺物等が検出でき、この時期の住居跡と思われる。

（2）溝

全体で９条の溝が確認されたが、時期を決める遺物が出土していない。覆土から中世以降の溝と考えられる。

１号溝は、土地改良事業等によって埋没したものと考えられる溝である。

（3）井戸

１号・２号井戸跡が確認された。１号井戸は一部調査区外のため全体を確認していない。遺物は土師器片１点を検出しているが構築時期等を決めるものはなかった。２号井戸は擂鉢状の断面形を呈し底部中央部に円筒状の掘り込みを持つ形状である。出土遺物に土師器片、須恵器片、砥石などの他に近世～近代の遺物も検出している。構築時期は不明である。

（4）土坑

全体で53箇所の土坑を確認した。平面形は、円形状の物がほとんどで、二重三重に重複した土坑も確認している。長径は100～120cmで、深さは20～30cmとやや浅い物が多いい。用途は不明である。

（5）ピット

全体で31箇所のピットを確認した。溝・土坑・住居跡等に付随するものか、屋敷跡等が存在するか、明確にするものがなくピットとして記載した。

全体に平安時代の遺構が中心と思われるが、不明な点が多い。周辺には、貴重な文化財等が残されているが、付近での調査が少なく今後の調査資料に期待をしたい。

参考文献

清里・陣場遺跡　1981　(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

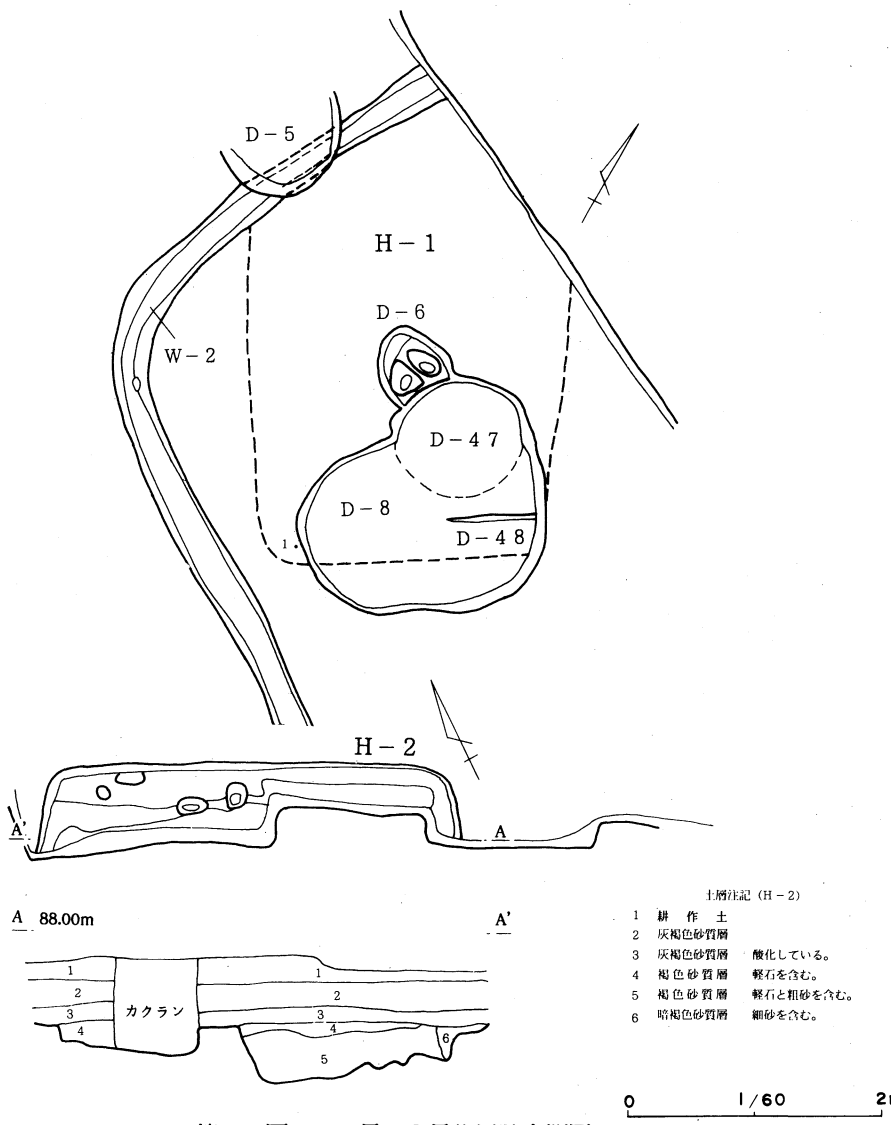
中尾遺跡（遺物編）1984　(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

芳賀東部団地遺跡Ⅱ 1988　前橋市教育委員会

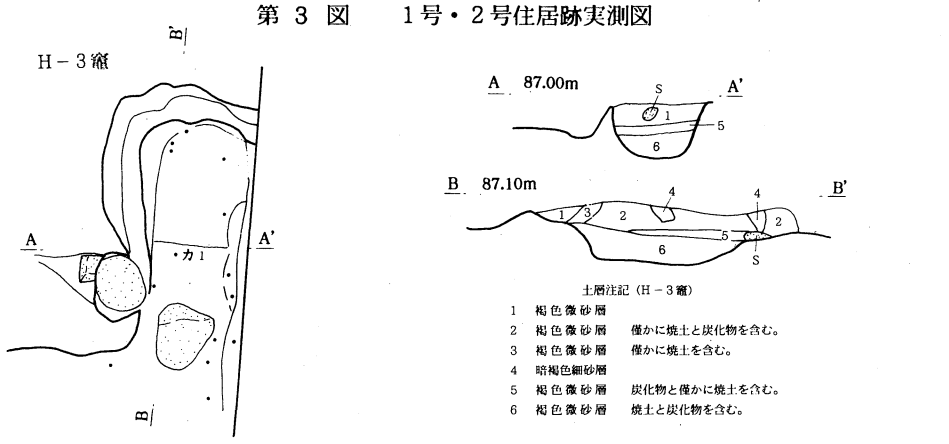
出土遺物観察表

註：法量 ①口径②底径③高台径④器高⑤長⑥幅⑦厚 をｃｍ、⑧重はｇで表し、（ ）は推定値を示す。

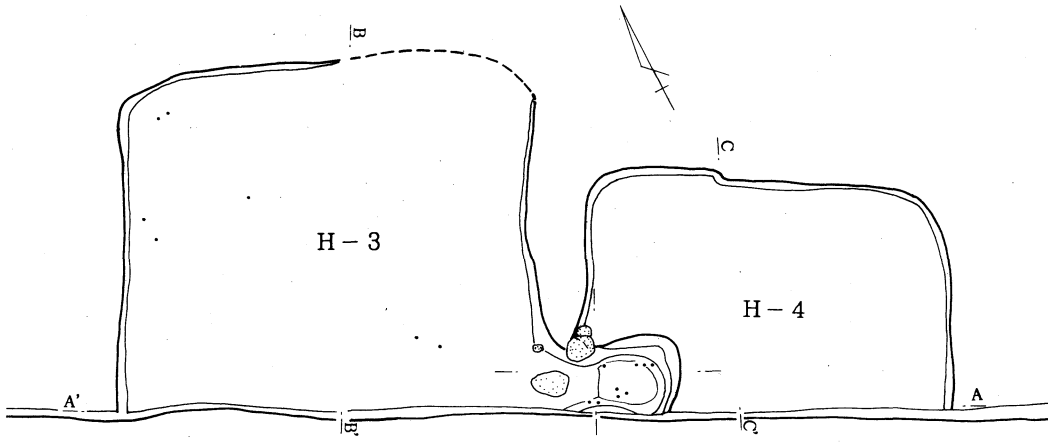
NO	出土場所	種　類	法　量	胎土焼成	色　調	器形・成形・整形の特徴	遺存備考	図版
1	H-1-1	土師器坏	①(16.6) ④ 4.1	普通・酸化	橙	体部は内彎して立ち上がる。口縁部は内外面横ナデ。	小片	5
2	H-3ｶ1	土師器甕	①(19.8)	密・酸化	明褐	口縁部は「コ」の字状を呈す。頸部はヘラ圧痕明瞭、肩部横位のヘラ削り、口縁部内面ナデ。	口～肩部⅓残	5
3	H-5-1	土師質坏	①(12.7) ② 6.3 ④ 3.8	普通・還元	灰褐	底部は上底、体部は外傾して立ち上がる。ロクロ整形、底部回転糸切り未調整。	口縁部一部欠損	5
4	H-7-1	土師質坏	①(11.0) ②(5.3) ④ 3.9	普通・還元	明褐	底部は平底。体部は直線的に外傾する。体部内外面ナデ、底部回転糸切り未調整。	⅓残	5
5	H-8-1	土師質坏	①(12.5) ②(6.3) ④ 4.1	普通・酸化	鈍い黄褐	底部は上底。体部は緩やかに彎曲する。体部内外面ナデ、底部回転糸切り未調整。	½残	5
6	H-8-2	土師質坏	① 10.6 ② 5.5 ④ 3.2	普通・酸化	灰褐	底部は平底。体部は緩やかに彎曲し口縁部で外反する。ロクロ整形、底部回転糸切り未調整。	完形	5
7	H-8-3	土師質坏	①(10.2) ② 5.0 ④ 3.1	普通・還元	浅黄	底部は平底。体部は緩やかに彎曲し口縁部で外反する。体部外面ナデ、底部回転糸切り未調整。	ほぼ完形	5
8	H-9-1	土師器坏	①(15.6) ③(9.4) ④ 5.1	密・酸化	鈍い橙	底部は平底。体部は丸みを持って立ち上がり口縁部に沈線をなす。体部外面ロクロ整形、内面黒色。	⅔残	5
9	H-11-1	土師器甕	① 19.6	密・酸化	明赤褐	口縁部は「コ」の字状を呈す。口唇部は内側に沈線をなす。口縁部外面横ナデ、肩部にヘラ圧痕、内面ヘラナデ。	口縁～肩部¼残	6
10	W-1-1	砥石	⑤4.9 ⑥2.7 ⑦2.3 ⑧57.37			三面使用、表面平滑化。石質は粘板岩。		6
11	W-4 一括	砥石	⑤8.5 ⑥2.8 ⑦1.0 ⑧38.75			三面使用。石質は粘板岩。		6
12	I-2一括 1	砥石	⑤5.5 ⑥2.7 ⑦2.6 ⑧74.50			四面使用、長方形。石質は粘板岩。		6
13	I-2一括 2	砥石	⑤4.0 ⑥2.6 ⑦1.6 ⑧35.21			三角面使用。裏面は縦位の条線を認む。石質は粘板岩。		6
14	I-3ｸﾞ-1	砥石	⑤8.0 ⑥3.2 ⑦2.0 ⑧ 89.02			四面使用、表面平滑化。石質は粘板岩。		6
15	M-10ｸﾞ-1	土錘	⑤ 4.8 ⑥ 1.9 ⑧ 15.76	密・酸化	褐	穿孔径 0.5 ｃｍ	一部欠損	6

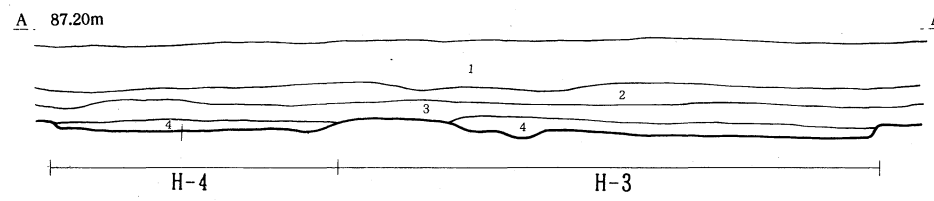


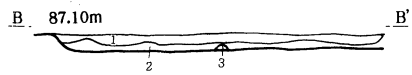
第 3 図　　1号・2号住居跡実測図

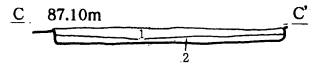


第 4 図　　3号住居跡竈実測図









土層注記（H－3・4南壁）

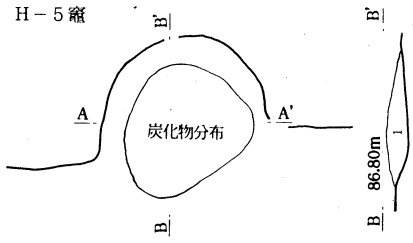
1　耕　作　土
2　灰褐色砂質層　　軽石を含み、酸化している。
3　暗褐色砂質土層　　締まりがある。B軽石、F・P、炭化物を含む。
4　暗褐色砂質土層　　締りがある。軽石、炭化物、微砂を含む。

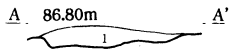
土層注記（H－3・4）

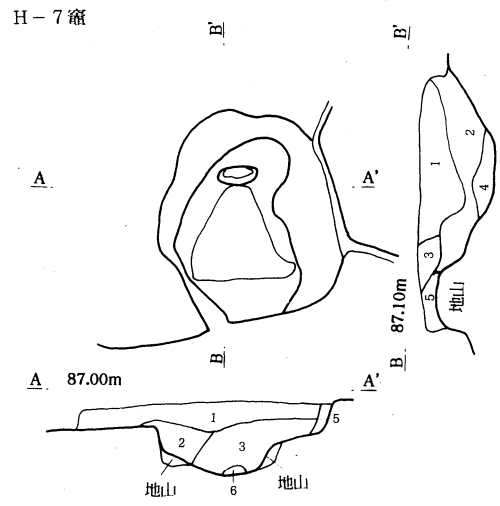
1　褐色砂質層　　締まりがある。F・Pを含む。
2　褐色砂質層　　F・Pを含む。
3　褐色砂質層　　黄褐色微砂を含む。

0　1/60　2m

第 5 図　　3号・4号住居跡実測図







土層注記（H－5竈）

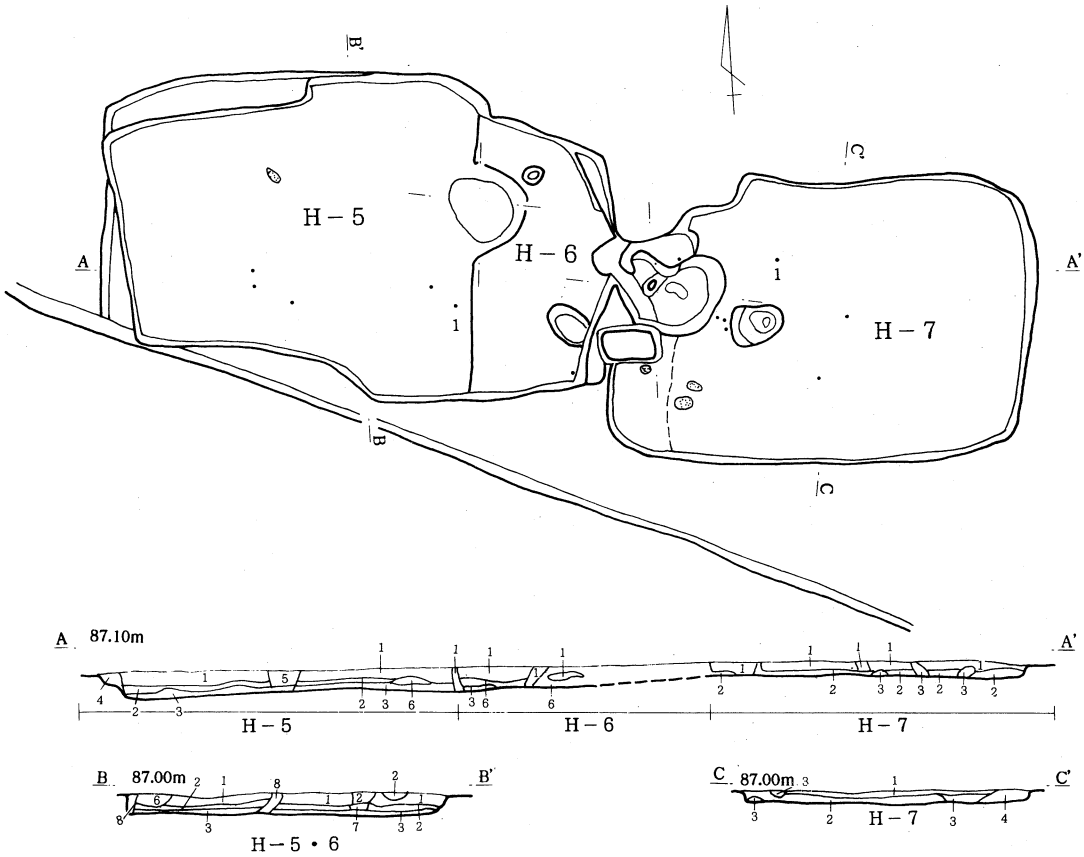
1　黄褐色砂質層　　炭化物を含む。

土層注記（H－7竈）

1　暗褐色砂質層　　締まりがあり、粗砂を含む。
2　灰褐色砂質層　　細砂と僅かに焼土を含む。
3　黄褐色砂質層　　粗砂を含む。
4　黄褐色砂質層
5　灰褐色砂質層
6　黄褐色微砂ブロック

0　1/30　1m

第 6 図　　5号・7号住居跡竈実測図



土層注記（H－5・6・7）

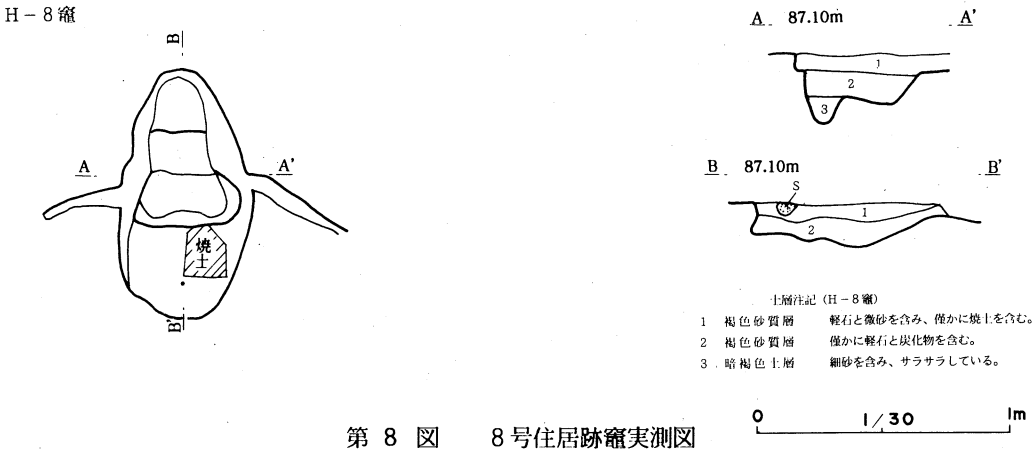
1　褐色砂質層　粗砂、B軽石、F・Pを含む。
2　褐色砂質層　軽石と細砂を含む。
3　褐色砂質層　微砂を含む。
4　灰褐色砂質層　粗砂を含む。
5　褐色砂質層　軽石、細砂を含む。
6　褐色砂質層　軽石と僅かに炭化物を含む。
7　暗褐色微砂層
8　灰褐色砂質層　細砂を含む。

土層注記（H－7）

1　暗褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
2　暗褐色砂質層　微砂と僅かに軽石を含む。
3　暗褐色砂質層　黄褐色微砂を含む。
4　黄褐色微砂層

0　1/60　2m

第 7 図　　5号・6号・7号住居跡実測図

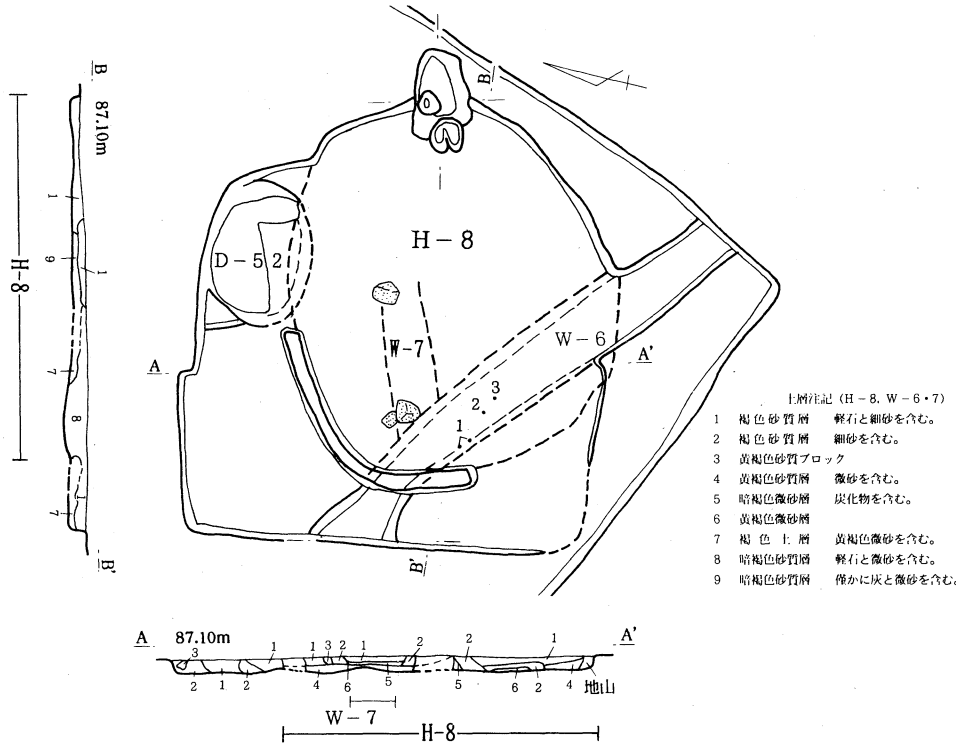


土層注記（H－8竈）

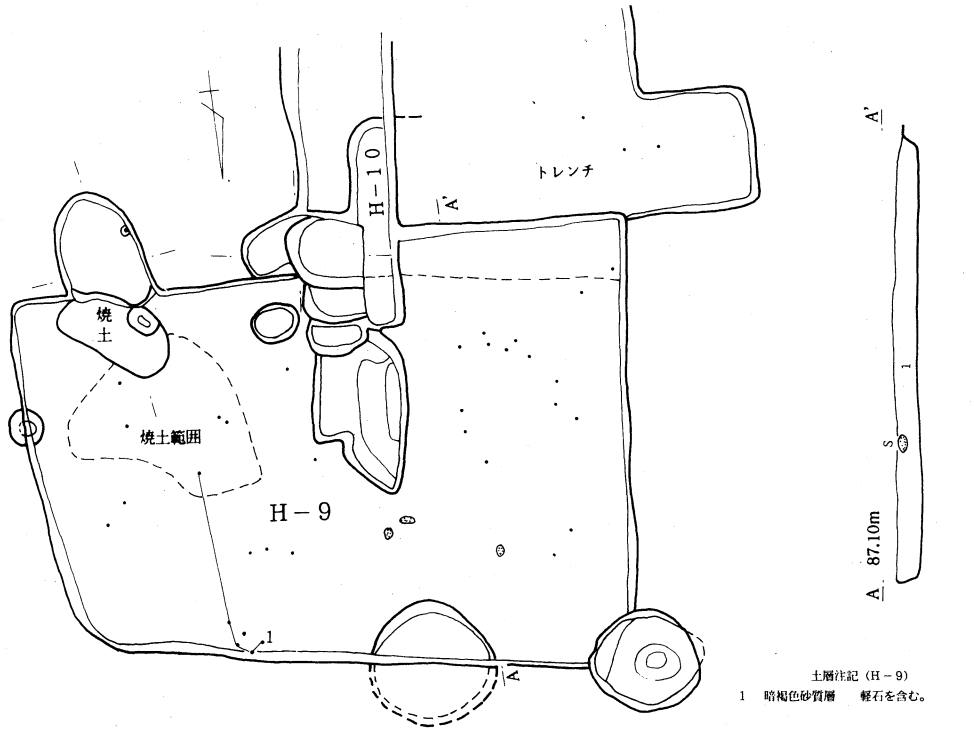
1　褐色砂質層　軽石と微砂を含み、僅かに焼土を含む。
2　褐色砂質層　僅かに軽石と炭化物を含む。
3　暗褐色土層　細砂を含み、サラサラしている。

0　1/30　1m

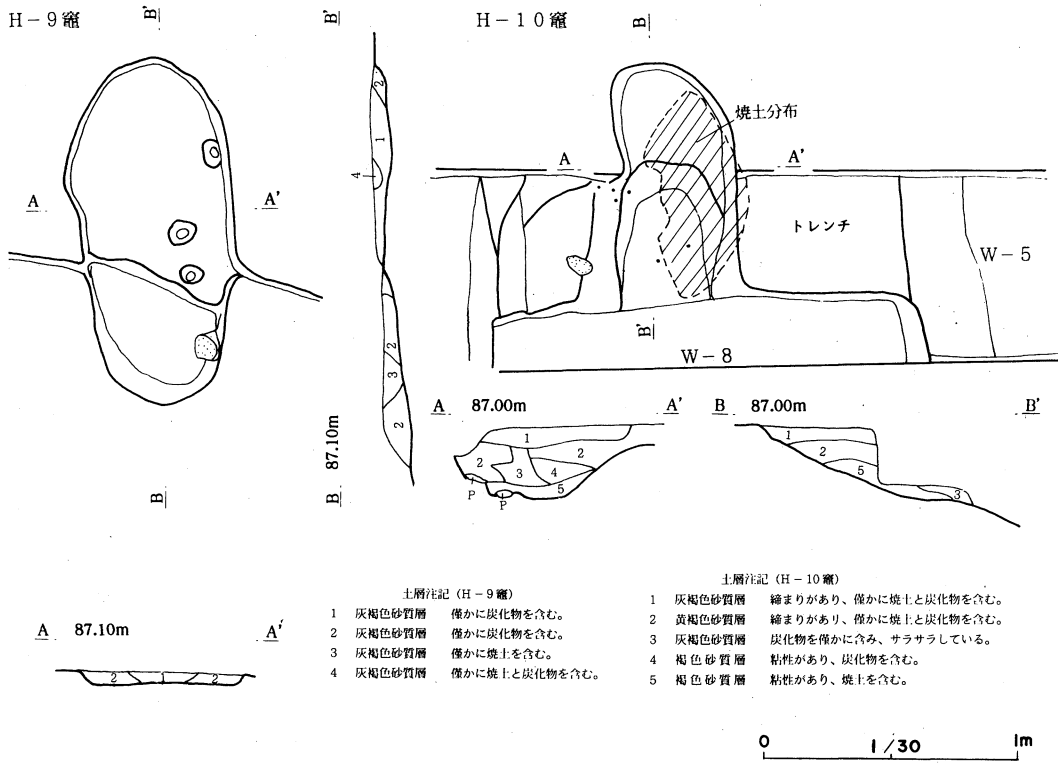
第 8 図　　8号住居跡竈実測図



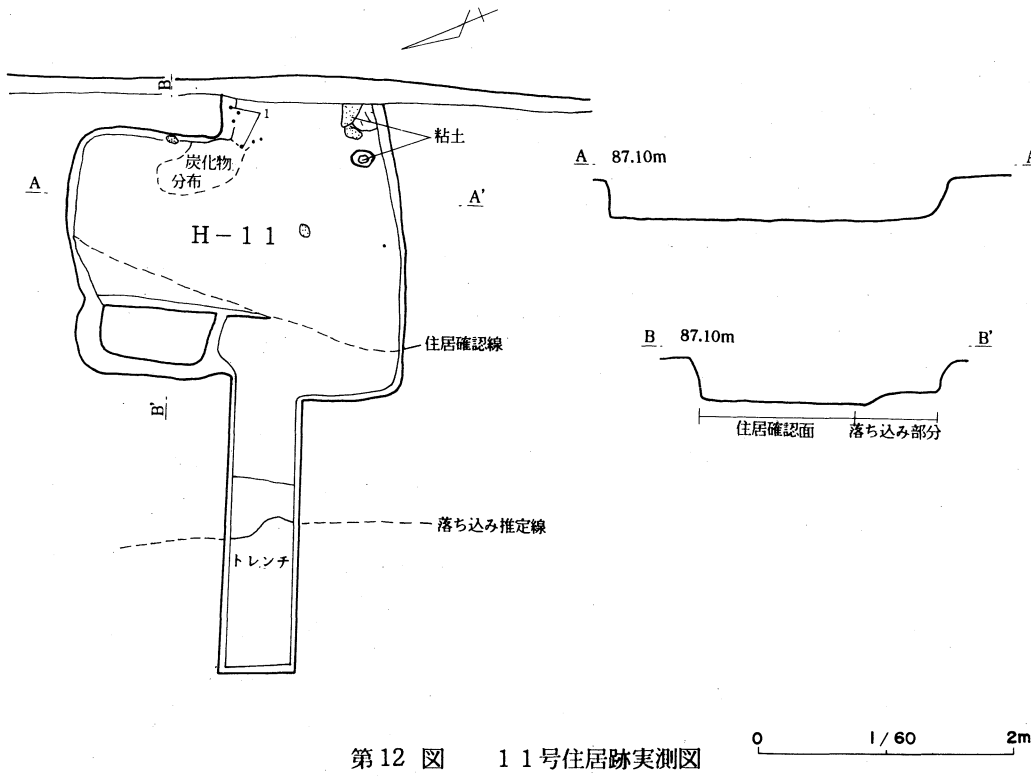
第 9 図　　8号住居跡・6号・7号溝実測図



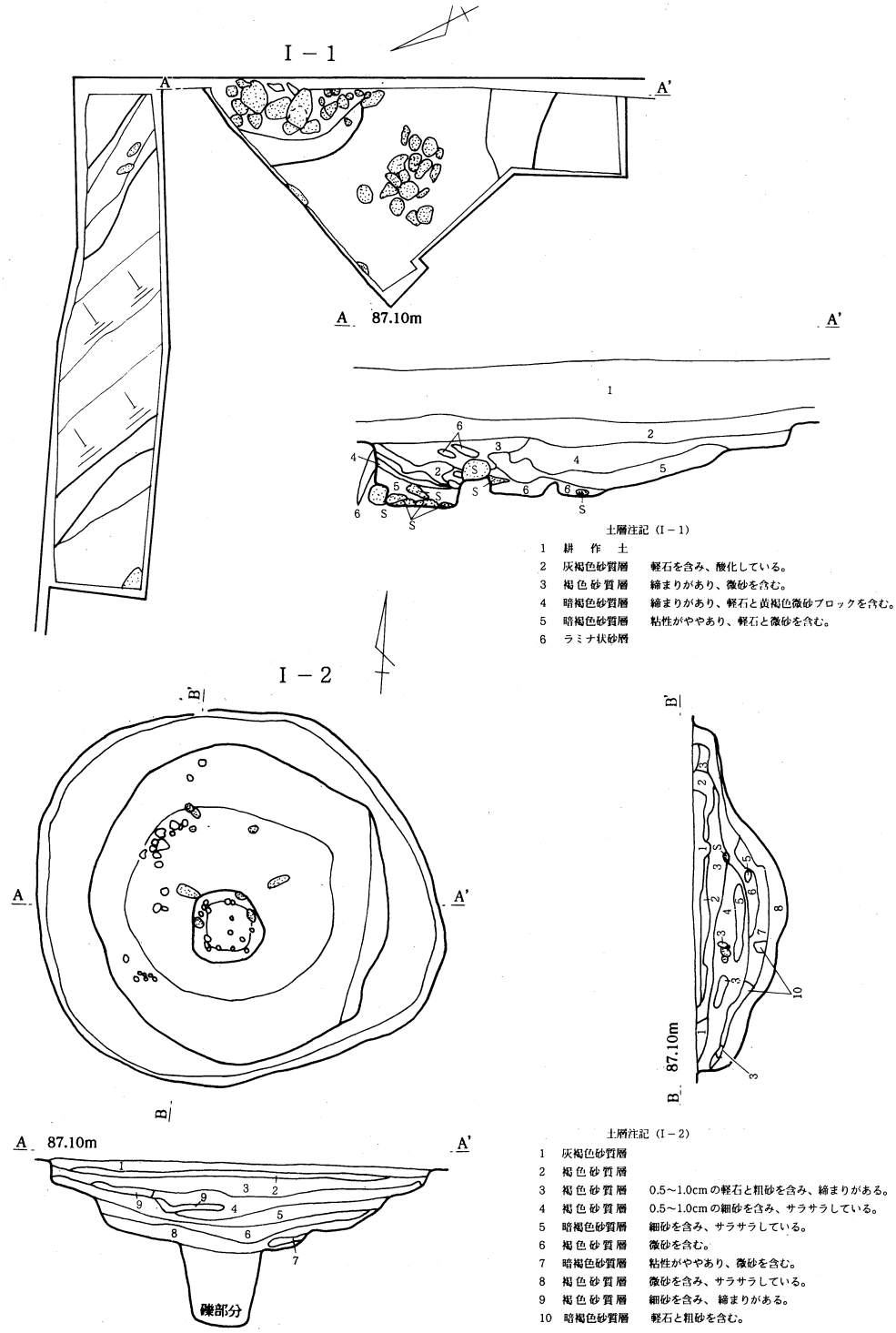
第10 図　　9号・10号住居跡実測図　　0　1/60　2m



第 11 図　　9号・10号住居跡竈実測図



第 12 図　　11号住居跡実測図



土層注記（I－1）

1　耕　作　土
2　灰褐色砂質層　軽石を含み、酸化している。
3　褐色砂質層　締まりがあり、微砂を含む。
4　暗褐色砂質層　締まりがあり、軽石と黄褐色微砂ブロックを含む。
5　暗褐色砂質層　粘性がややあり、軽石と微砂を含む。
6　ラミナ状砂層

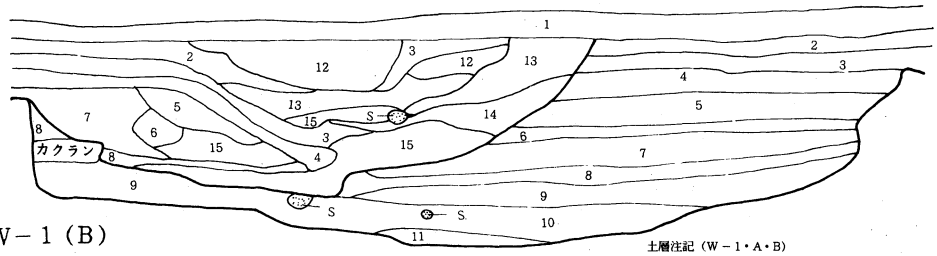
土層注記（I－2）

1　灰褐色砂質層
2　褐色砂質層
3　褐色砂質層　0.5～1.0cmの軽石と粗砂を含み、締まりがある。
4　褐色砂質層　0.5～1.0cmの細砂を含み、サラサラしている。
5　暗褐色砂質層　細砂を含み、サラサラしている。
6　褐色砂質層　微砂を含む。
7　暗褐色砂質層　粘性がややあり、微砂を含む。
8　褐色砂質層　微砂を含み、サラサラしている。
9　褐色砂質層　細砂を含み、締まりがある。
10　暗褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。

第13図　　1号・2号井戸跡実測図

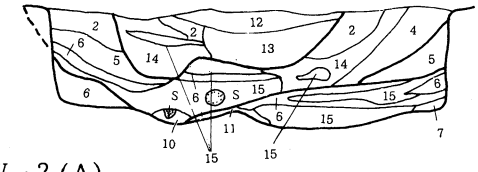
W－1（A）

A　87.80m　　A'



W－1（B）

B　87.20m　　B'



土層注記（W－1・A・B）

1	耕作土	
2	灰褐色砂質層	粘性はなく、サラサラしている。
3	灰褐色砂質不透水層	僅かにB軽石を含み、酸化している。
4	灰褐色細砂層	粘性はなく、硬く締まっている。
5	褐色微砂層	粘性はなく、硬く締まっている。
6	暗褐色細砂層	粘性はなく、硬く締まっている。
7	暗褐色微砂層	粘性はなく、硬く締まっている。
8	褐色微砂層	粘性はなく、硬く締まっている。
9	褐色細砂層	粘性はなく、締まりがない。
10	礫層（川底）	1cm～15cmまでの礫と、川石が点在する。
11	暗褐色微砂層	
12	1・2の攪乱	
13	2・3の攪乱	
14	3・4の攪乱	
15	砂層	

W－2（A）

A　87.10m　　A'

土層注記（W－2・A）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。
2　灰褐色砂質層　　所々軽石と細砂を含む。
3　褐色砂質層　　軽石と微砂を含む。

W－2（B）

B　87.10m　B'

土層注記（W－2・B）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、上部は酸化している。

W－2（C）

C　87.10m　C'

土層注記（W－2・C）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

W－3（A）

A　87.20m　A'

土層注記（W－3・A）

1　灰褐色砂質層　　軽石と微砂を含む。

W－3（B）

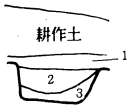
B　87.20m　B'

土層注記（W－3・B）

1　灰褐色砂質層　　軽石と微砂を含む。

W－4（A）

A　87.30m　A'

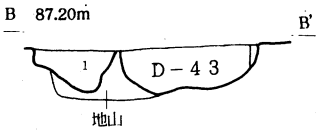


土層注記（W－4・A）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、全体に酸化している。
2　灰褐色砂質層　　軽石を含む。
3　褐色砂質層　　微砂を含む。

W－4（B）

B　87.20m　B'

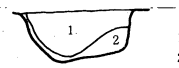


土層注記（W－4・B）

1　褐色砂質層　　軽石と細砂を含む。
2　黄褐色砂質層　　微砂を含む。
3　暗褐色微砂層

W－4（C）

C　87.10m　C'

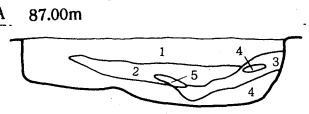


土層注記（W－4・C）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。
2　黄褐色微砂層

W－5（A）

A　87.00m　　A'

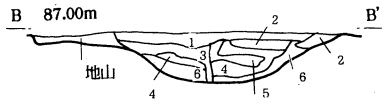


土層注記（W－5・A）

1　灰褐色砂質層　　締まりがあり、軽石を含む。
2　暗褐色砂質層　　締まりがあり、軽石と粗砂を含む。
3　褐色砂質層　　僅かに軽石と炭化物を含む。
4　褐色砂質層　　軽石と粗砂を含む。

W－5（B）

B　87.00m　　B'

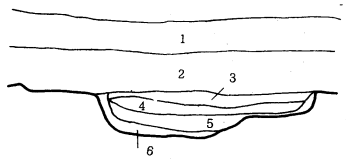


土層注記（W－5・B）

1　灰褐色砂質層　　締まりがあり、軽石を含む。
2　灰褐色砂質層　　粗砂を含み、所々酸化している。
3　暗褐色砂質層　　僅かに軽石を含み、細砂も含む。
4　褐色砂質層　　軽石と粗砂を含む。
5　褐色砂質層　　軽石と黄褐色微砂を含む。
6　褐色砂質層　　軽石と黄褐色微砂を含む。

W－5（C）

C　87.60m　　C'



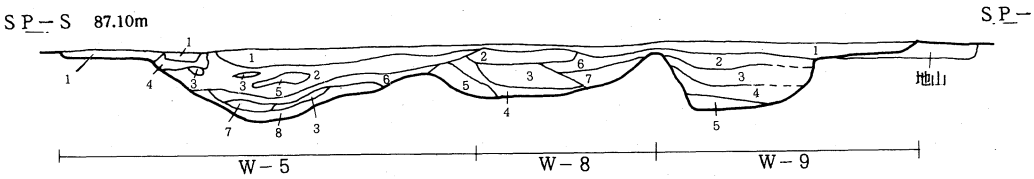
土層注記（W－5・C）

1　耕作土
2　灰褐色砂質層　　酸化している。
3　赤褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
4　暗褐色砂質層　　締まりがあり、軽石と粗砂を含む。
5　暗褐色砂質層　　締まりがややあり、粗砂を含む。
6　褐色砂質層　　粘性がややあり、微砂を含む。

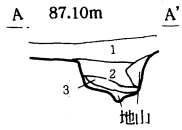
0　1/60　2m

第14図　　1～5号溝跡実測図

W－5・8・9



W－6



土層注記（W－6）

1　暗褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
2　暗褐色砂質層　粗砂を含む。
3　暗褐色砂質層　細砂と黄褐色微砂を含む。

土層注記（W－5）

1　灰褐色砂質層　粗砂と軽石を含む。
2　灰褐色砂質層　軽石と細砂を含む。
3　灰褐色砂質層　粗砂を含む。（ラミナ状の砂層）
4　黄褐色砂質層　微砂を含む。
5　灰褐色砂質層　黄褐色微砂を含む。
6　灰褐色砂質層　微砂を含み、サラサラしている。
7　黄褐色砂質層　（ラミナ状の砂層）
8　暗褐色砂質層　細砂を含む。

土層注記（W－8）

1　灰褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
2　黄褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
3　黄褐色砂質層　炭化物と軽石を含む。
4　黄褐色砂質層　細砂を含む。
5　黄褐色砂質層　微砂を含む。
6　灰褐色砂質層　粗砂を含む。
7　灰褐色砂質層　細砂を含む。

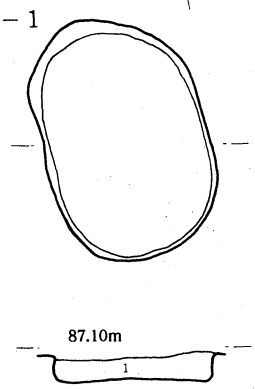
土層注記（W－9）

1　灰褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
2　褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
3　灰褐色砂質層　軽石と焼土粒を僅かに含む。
4　灰褐色砂質層　軽石と僅かに炭化物を含む。
5　黄褐色砂質層　細砂を含む。

0　1/60　2m

第15図　5～6号・8号・9号溝跡実測図

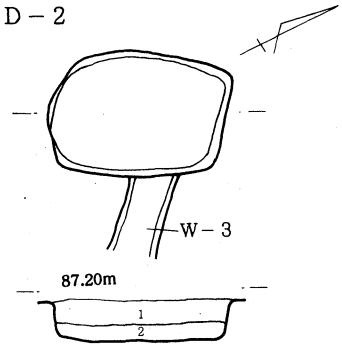
D－1



土層注記（D－1）

1　灰褐色砂質層　粘性が余りなく、軽石と粗砂を含み、所々酸化している。

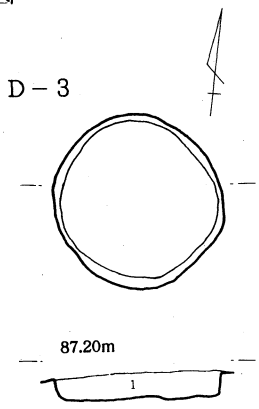
D－2



土層注記（D－2）

1　灰褐色砂質層　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　粘性がややあり、軽石と細砂を含む。

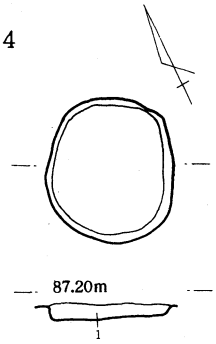
D－3



土層注記（D－3）

1　灰褐色砂質層　粘性が余りなく、軽石と粗砂を含み、所々酸化している。

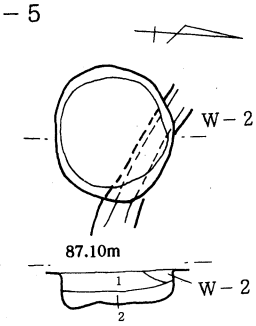
D－4



土層注記（D－4）

1　灰褐色砂質層　軽石と所々細砂を含む。

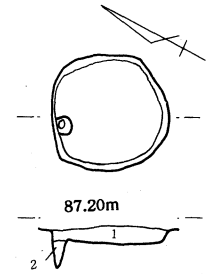
D－5



土層注記（D－5）

1　灰褐色砂質層　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　粘性がややあり、軽石と細砂を含む。

D－7



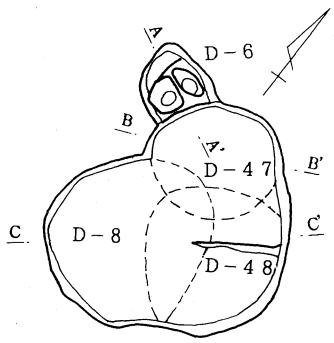
土層注記（D－7）

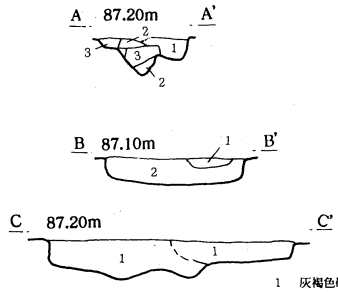
1　灰褐色砂質層　粘性が余りなく、軽石と粗砂を含み、所々酸化している。

0　1/60　2m

第16図　1～5・7号土坑実測図

D－6　D－8　D－47　D－48





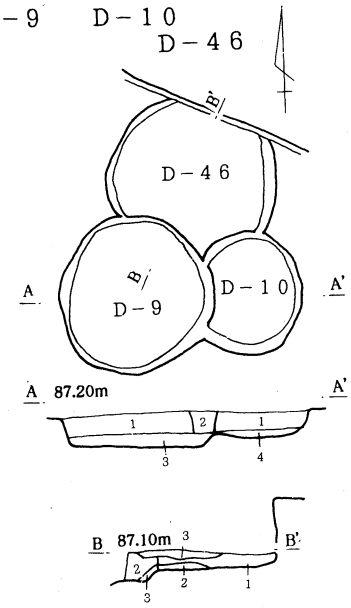
土層注記（D－6）
1　灰褐色砂質層　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　軽石を含む。
3　明褐色砂質層　細砂を含む。

土層注記（D－47）
1　暗褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂ブロックを含む。
2　暗褐色砂質層　軽石を含む。

土層注記（D－8）
1　灰褐色砂質層　上部は酸化を帯びる。軽石を含み所々酸化している。

土層注記（D－48）
1　灰褐色砂質層　上部は酸化を帯びる。軽石を含み所々酸化している。

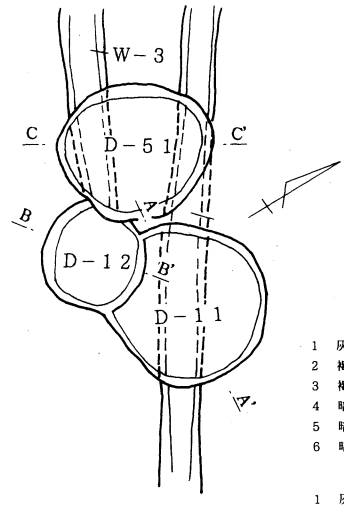
D－9　D－10　D－46

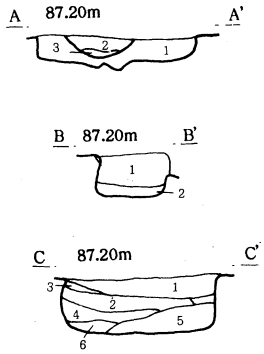


土層注記（D－9,10）
1　灰褐色砂質層　軽石を含み所々酸化している。
2　褐色砂質層　軽石を含む。
3　暗褐色砂質層　軽石を含む。
4　褐色砂質層　軽石を含み所々酸化している。

土層注記（D－46）
1　灰褐色砂質層　軽石を含む。
2　灰褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。

D－11　D－12　D－51



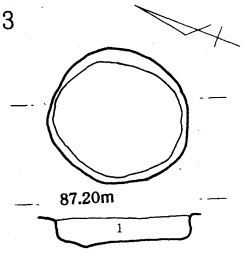


土層注記（D－11）
1　暗褐色砂質層　軽石を含み、所々酸化している。
2　灰褐色砂質層　軽石を含む。
3　明褐色砂質層　細砂を含む。

土層注記（D－51）
1　灰褐色砂質層　締まりがあり、軽石と粗砂を含む。
2　褐色砂質層　軽石と細砂を含む。
3　褐色砂質層　細砂を含む。
4　暗褐色砂質層　微砂を含む。
5　暗褐色砂質層　所々黄褐色微砂を含む。
6　暗褐色砂質層　粘性がある。

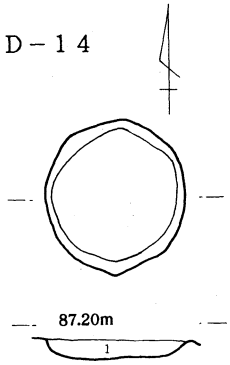
土層注記（D－12）
1　灰褐色砂質層　軽石を含み、所々酸化している。
2　暗褐色砂質層　軽石を含む。

D－13



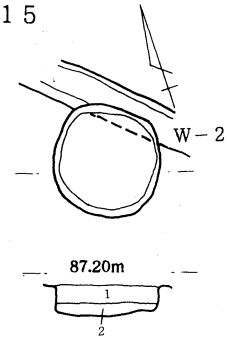
土層注記（D－13）
1　灰褐色砂質層　上部は酸化している。軽石を含む。

D－14



土層注記（D－14）
1　褐色砂質層　軽石を含み、上部は酸化している。

D－15

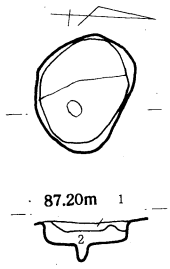


土層注記（D－15）
1　灰褐色砂質層　軽石を含み、上部は酸化している。
2　褐色砂質層　軽石を含む。

0　1/60　2m

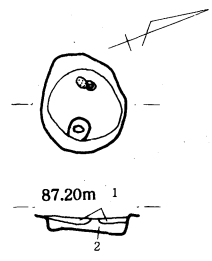
第17図　6～15・46～48・51号土坑実測図

D－16



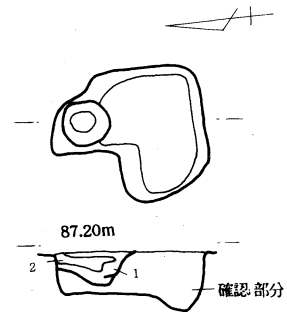
土層注記（D－16）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　黄褐色砂質層　　微砂を含む。

D－17



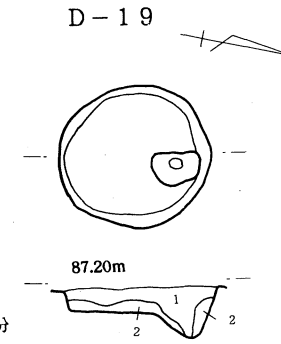
土層注記（D－17）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　黄褐色砂質層　　微砂を含む。

D－18



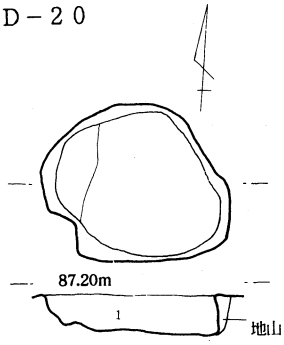
土層注記（D－18）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　灰褐色砂質層　　細砂を含む。

D－19



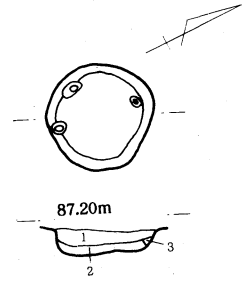
土層注記（D－19）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　　細砂を含む。

D－20



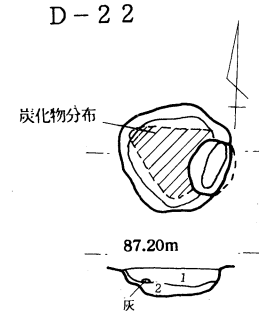
土層注記（D－20）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。

D－21



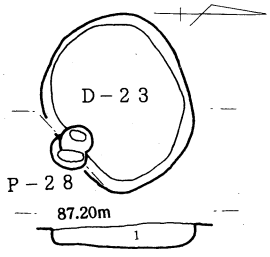
土層注記（D－21）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　　軽石を含む。
3　黄褐色細砂ブロック

D－22

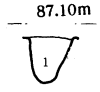


土層注記（D－22）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　　細砂と炭化物を含む。

D－23　　P－28

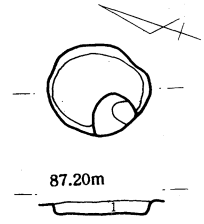


土層注記（D－23）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。



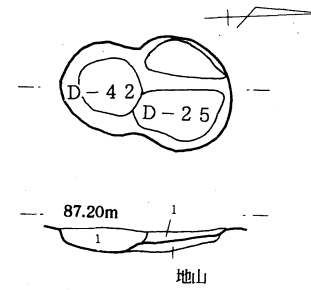
土層注記（pit 28）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。

D－24



土層注記（D－24）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。

D－42　　D－25

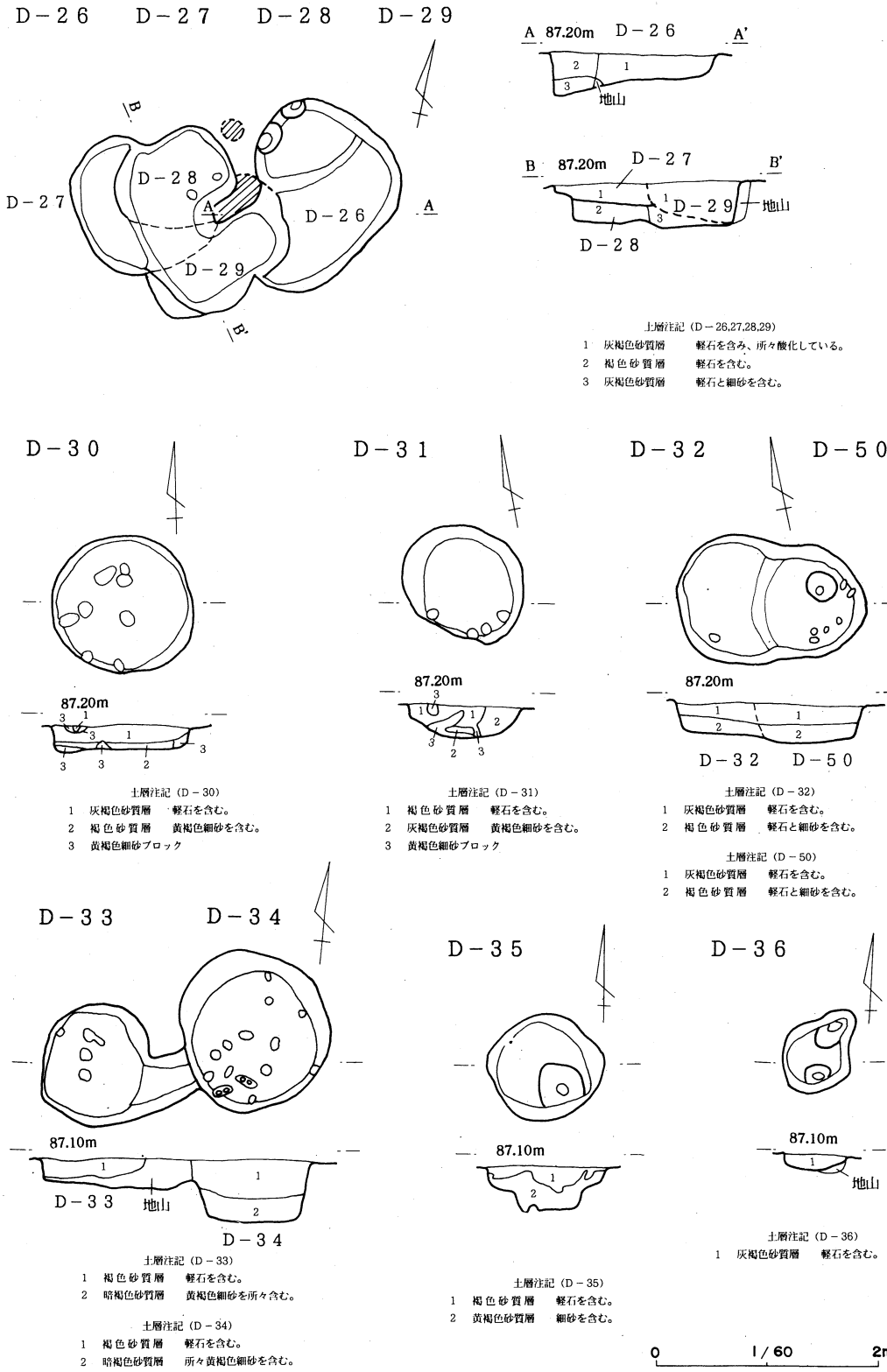


土層注記（D－42）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。

土層注記（D－25）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。

0　　1/60　　2m

第18図　　16～25・42号土坑・pit 28実測図



土層注記（D－26,27,28,29）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。
2　褐色砂質層　　軽石を含む。
3　灰褐色砂質層　　軽石と細砂を含む。

土層注記（D－30）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。
2　褐色砂質層　　黄褐色細砂を含む。
3　黄褐色細砂ブロック

土層注記（D－31）

1　褐色砂質層　　軽石を含む。
2　灰褐色砂質層　　黄褐色細砂を含む。
3　黄褐色細砂ブロック

土層注記（D－32）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。
2　褐色砂質層　　軽石と細砂を含む。

土層注記（D－50）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。
2　褐色砂質層　　軽石と細砂を含む。

土層注記（D－33）

1　褐色砂質層　　軽石を含む。
2　暗褐色砂質層　　黄褐色細砂を所々含む。

土層注記（D－34）

1　褐色砂質層　　軽石を含む。
2　暗褐色砂質層　　所々黄褐色細砂を含む。

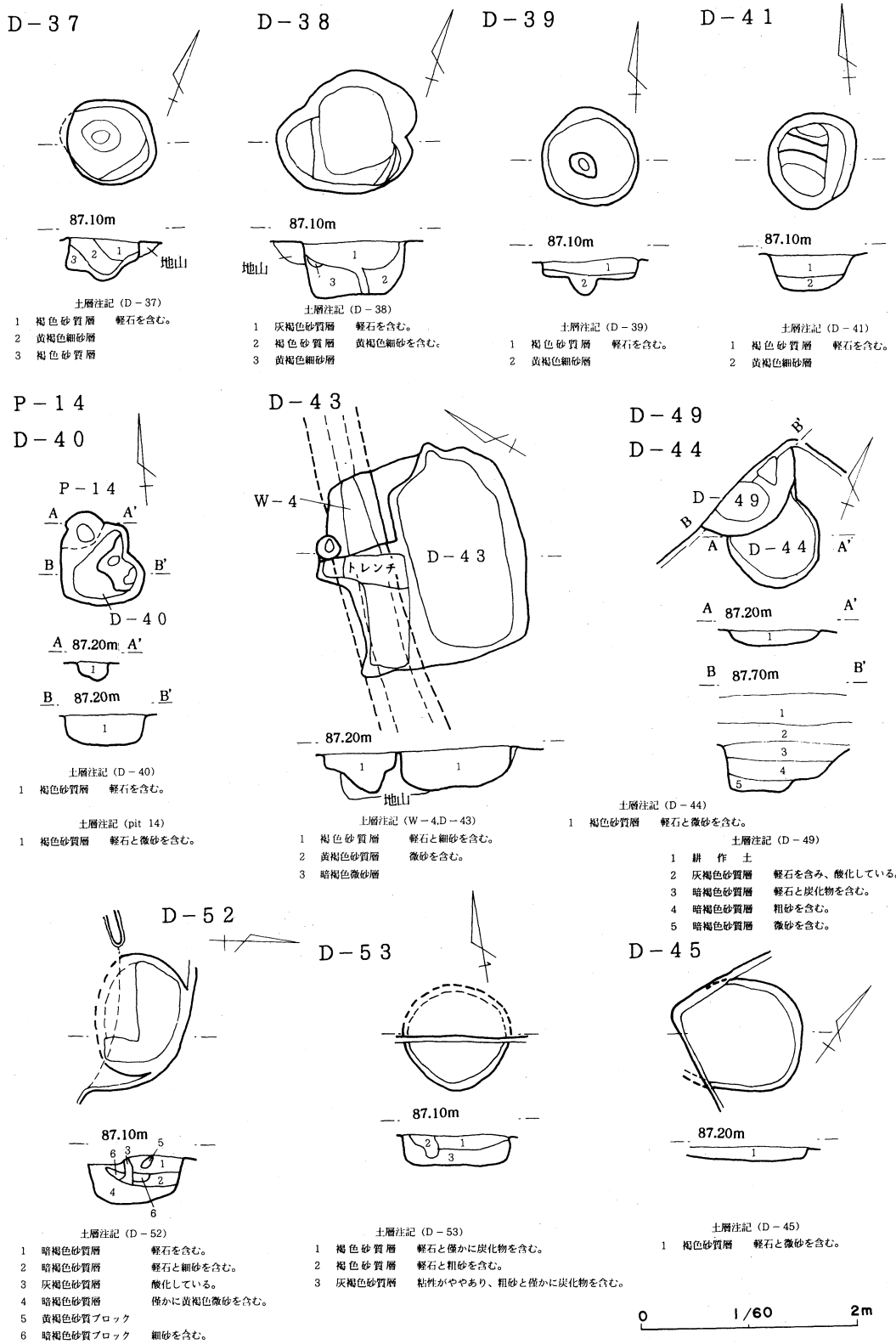
土層注記（D－35）

1　褐色砂質層　　軽石を含む。
2　黄褐色砂質層　　細砂を含む。

土層注記（D－36）

1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

第19図　　26～36・50号土坑実測図



土層注記（D－37）
1　褐色砂質層　軽石を含む。
2　黄褐色細砂層
3　褐色砂質層

土層注記（D－38）
1　灰褐色砂質層　軽石を含む。
2　褐色砂質層　黄褐色細砂を含む。
3　黄褐色細砂層

土層注記（D－39）
1　褐色砂質層　軽石を含む。
2　黄褐色細砂層

土層注記（D－41）
1　褐色砂質層　軽石を含む。
2　黄褐色細砂層

土層注記（D－40）
1　褐色砂質層　軽石を含む。

土層注記（pit 14）
1　褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

土層注記（W－4,D－43）
1　褐色砂質層　軽石と細砂を含む。
2　黄褐色砂質層　微砂を含む。
3　暗褐色微砂層

土層注記（D－44）
1　褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

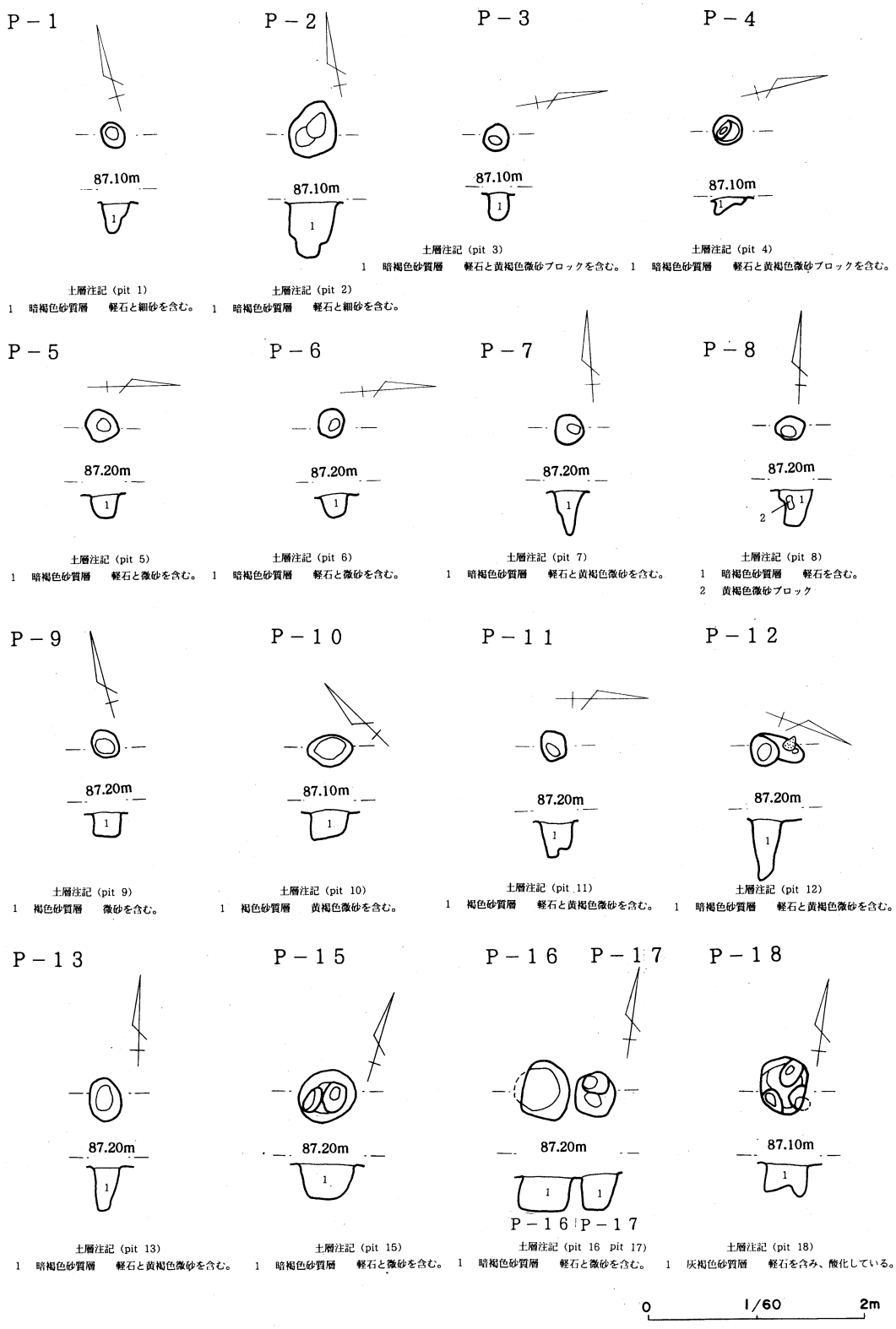
土層注記（D－49）
1　耕作土
2　灰褐色砂質層　軽石を含み、酸化している。
3　暗褐色砂質層　軽石と炭化物を含む。
4　暗褐色砂質層　粗砂を含む。
5　暗褐色砂質層　微砂を含む。

土層注記（D－52）
1　暗褐色砂質層　軽石を含む。
2　暗褐色砂質層　軽石と細砂を含む。
3　灰褐色砂質層　酸化している。
4　暗褐色砂質層　僅かに黄褐色微砂を含む。
5　黄褐色砂質ブロック
6　暗褐色砂質ブロック　細砂を含む。

土層注記（D－53）
1　褐色砂質層　軽石と僅かに炭化物を含む。
2　褐色砂質層　軽石と粗砂を含む。
3　灰褐色砂質層　粘性がややあり、粗砂と僅かに炭化物を含む。

土層注記（D－45）
1　褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

第 20 図　３７～４１・４３～４５・５２・５３号土坑・ｐｉｔ １４実測図



土層注記（pit 1）
1　暗褐色砂質層　軽石と細砂を含む。

土層注記（pit 2）
1　暗褐色砂質層　軽石と細砂を含む。

土層注記（pit 3）
1　暗褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂ブロックを含む。

土層注記（pit 4）
1　暗褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂ブロックを含む。

土層注記（pit 5）
1　暗褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

土層注記（pit 6）
1　暗褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

土層注記（pit 7）
1　暗褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂を含む。

土層注記（pit 8）
1　暗褐色砂質層　軽石を含む。
2　黄褐色微砂ブロック

土層注記（pit 9）
1　褐色砂質層　微砂を含む。

土層注記（pit 10）
1　褐色砂質層　黄褐色微砂を含む。

土層注記（pit 11）
1　褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂を含む。

土層注記（pit 12）
1　暗褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂を含む。

土層注記（pit 13）
1　暗褐色砂質層　軽石と黄褐色微砂を含む。

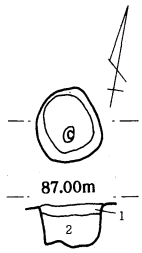
土層注記（pit 15）
1　暗褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

土層注記（pit 16　pit 17）
1　暗褐色砂質層　軽石と微砂を含む。

土層注記（pit 18）
1　灰褐色砂質層　軽石を含み、酸化している。

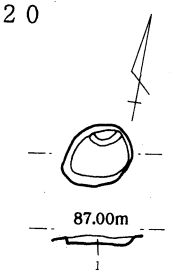
第21図　pit 1～13・15～18実測図

P－19



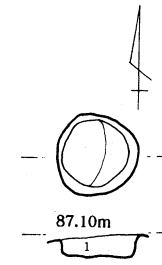
土層注記（pit 19）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、酸化している。
2　褐色砂質層　　軽石と微砂を含む。

P－20



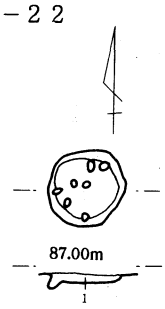
土層注記（pit 20）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、酸化している。

P－21



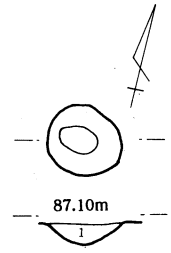
土層注記（pit 21）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

P－22



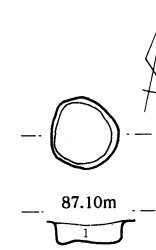
土層注記（pit 22）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、酸化している。

P－23



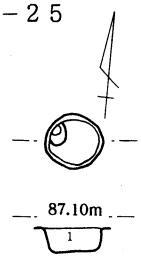
土層注記（pit 23）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

P－24



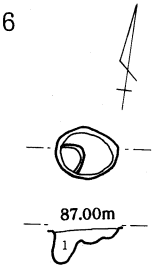
土層注記（pit 24）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

P－25



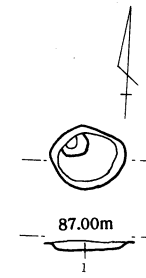
土層注記（pit 25）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

P－26



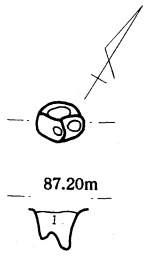
土層注記（pit 26）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

P－27



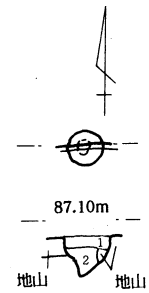
土層注記（pit 27）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含む。

P－29



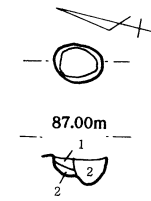
土層注記（pit 29）
1　灰褐色砂質層　　軽石を含み、所々酸化している。

P－30



土層注記（pit 30）
1　褐色砂質層　　粗砂を含む。
2　褐色砂質層　　細砂を含む。

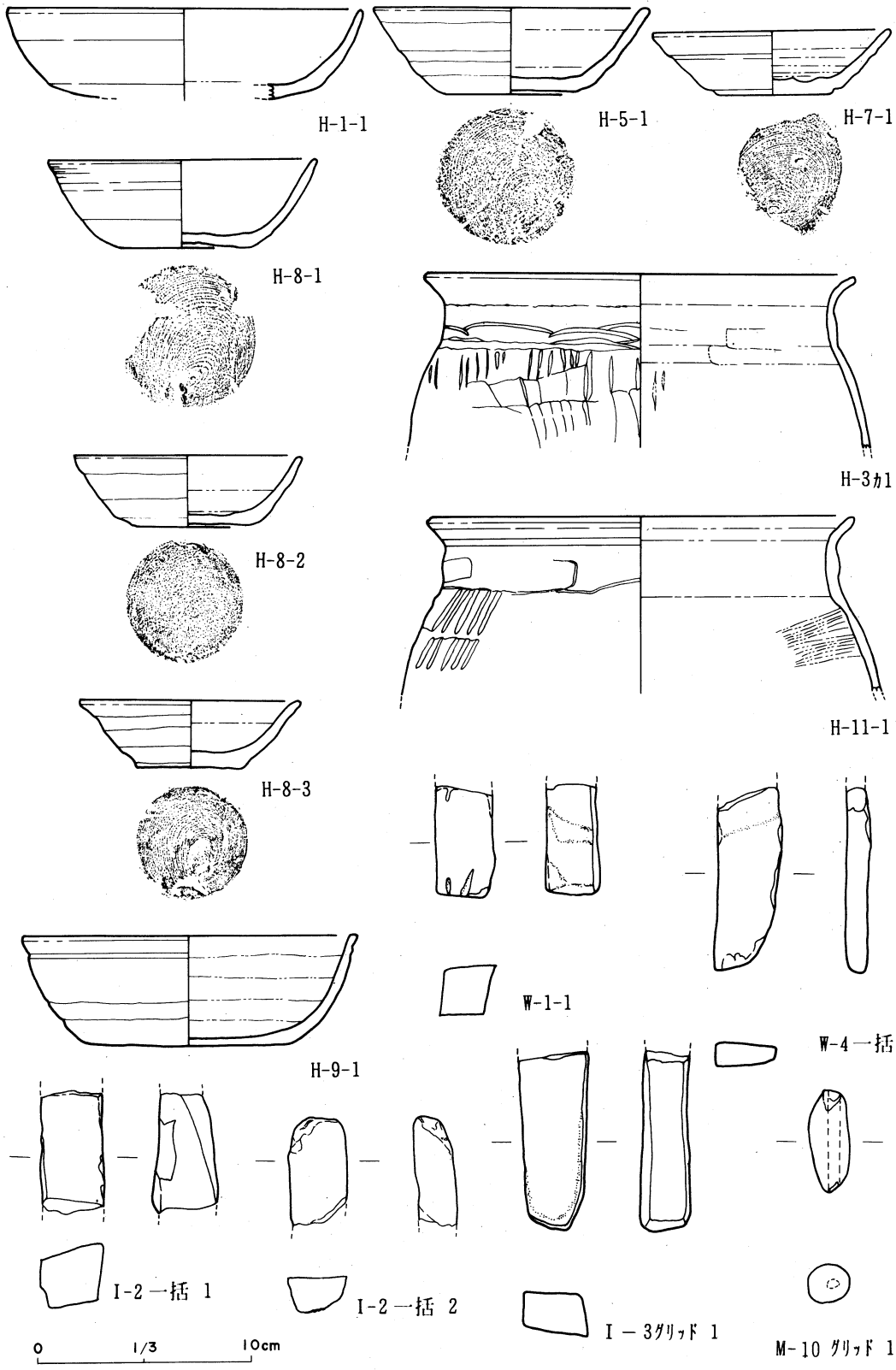
P－31

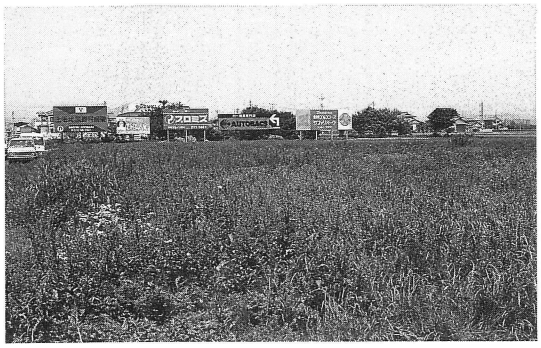


土層注記（pit 31）
1　褐色砂質層　　粗砂を含む。
2　褐色砂質層　　粗砂と僅かに炭化物を含む。

0　1/60　2m

第22図　pit 19～27・29～31実測図


H-1-1
H-5-1
H-7-1
H-8-1
H-3カ1
H-8-2
H-11-1
H-8-3
W-1-1
W-4一括
H-9-1
I-2一括 1
I-2一括 2
I－3ｸﾞﾘｯﾄﾞ 1
M-10 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 1
0
1/3
10cm



調査前現況（東より）

調査前現況（西より）

1号住居跡範囲

1号住居跡出土遺物状況

2号住居跡範囲

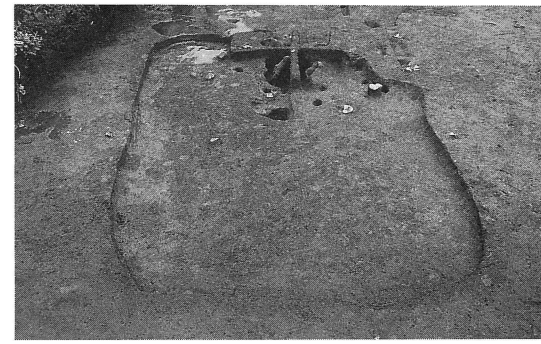
3号住居跡

3号住居跡竈出土遺物状況

4号住居跡

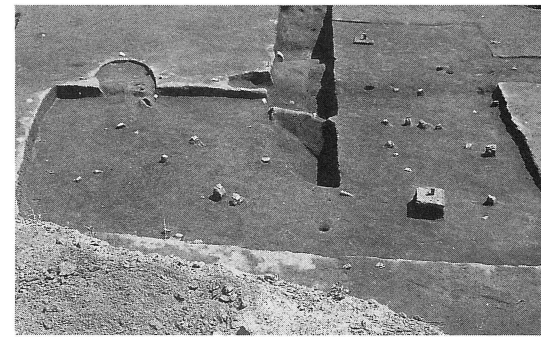
図版　2

5・6号住居跡

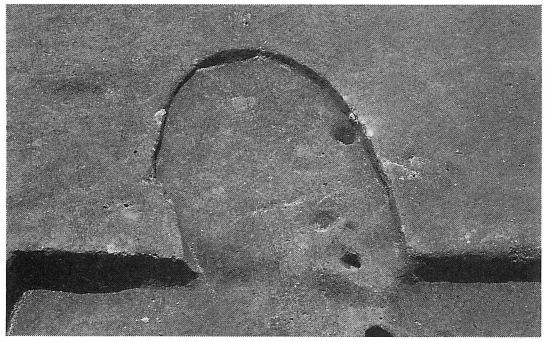


7号住居跡出土遺物状況

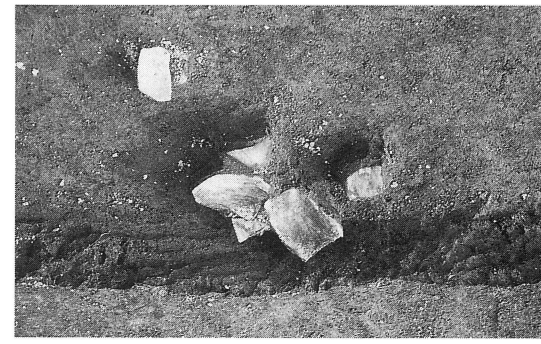
8号住居跡出土遺物状況



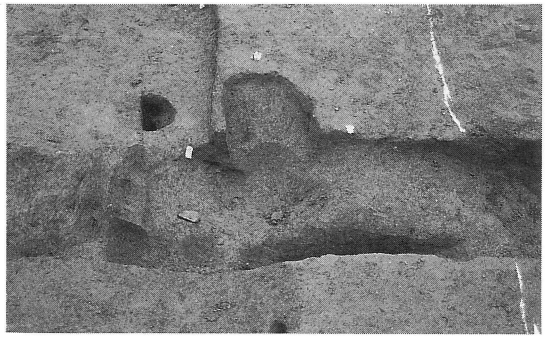
9号住居跡



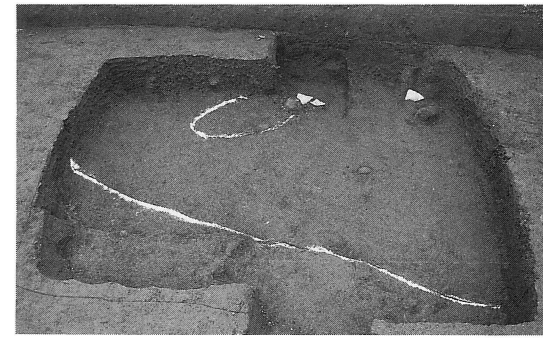
9号住居跡竈



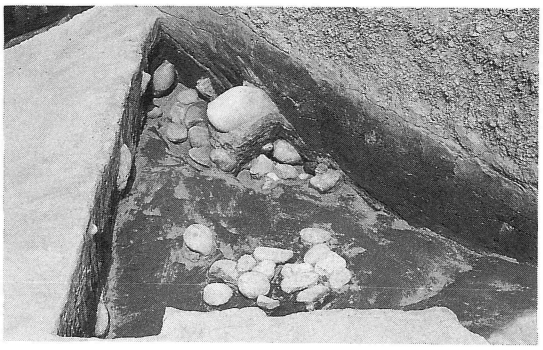
9号住居跡出土遺物状況



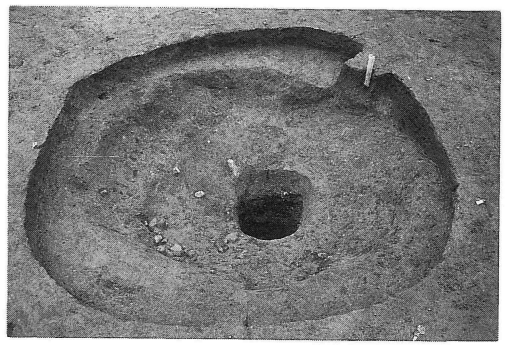
１０号住居跡



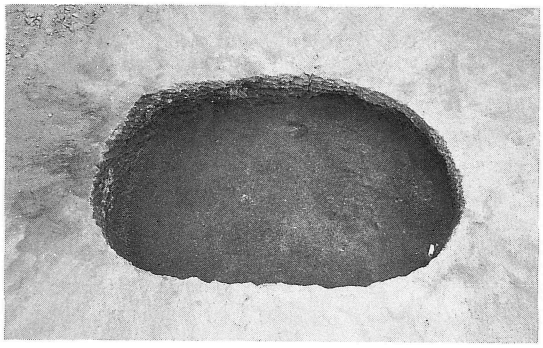
１１号住居跡範囲



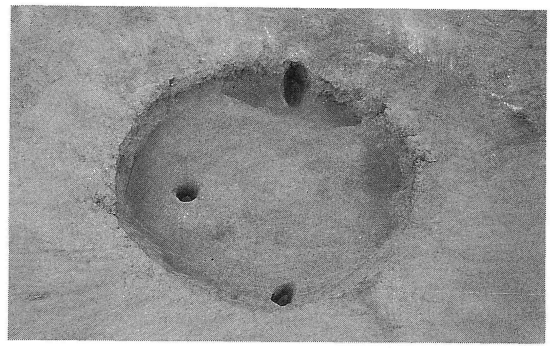
1号井戸出石状況



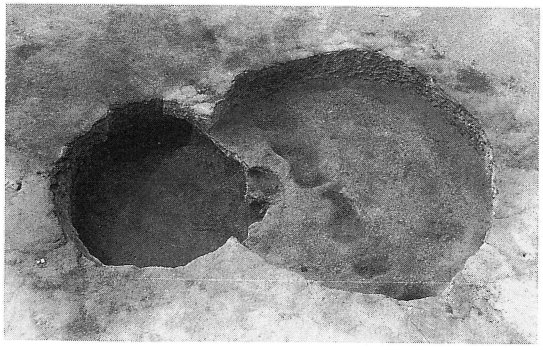
2号井戸全景



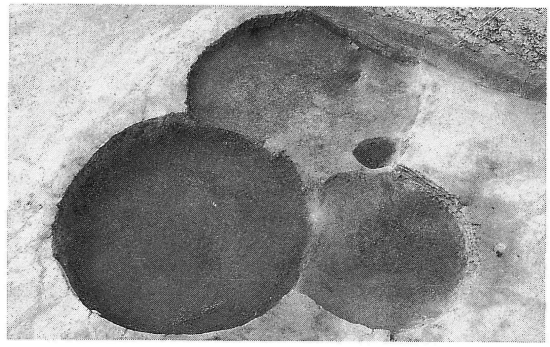
1号土坑



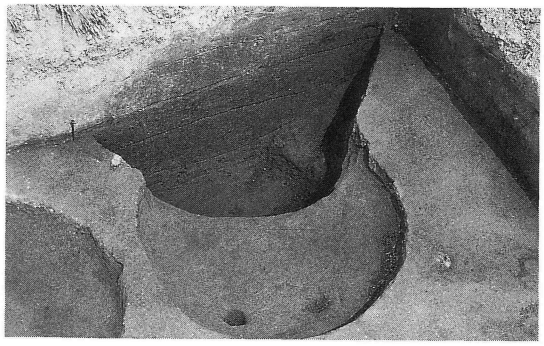
4号土坑



11・12号土坑



9・10・40号土坑



44・49号土坑

3・4号ピット

２６号ピット

１号溝北側調査区（西より）

２号溝跡（北より）

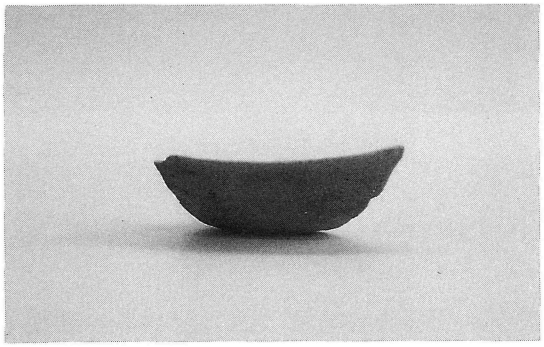
３号溝跡（東より）

４号溝跡（東より）

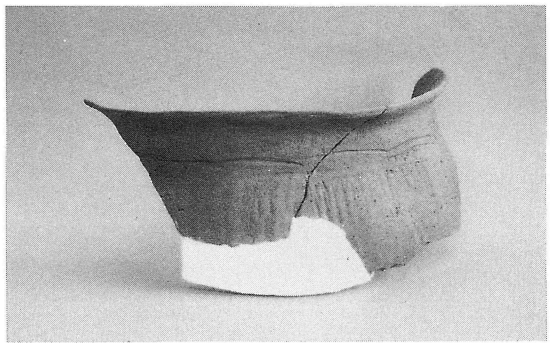
５号溝跡（西より）

西側調査区（東より）

東側調査区（西より）

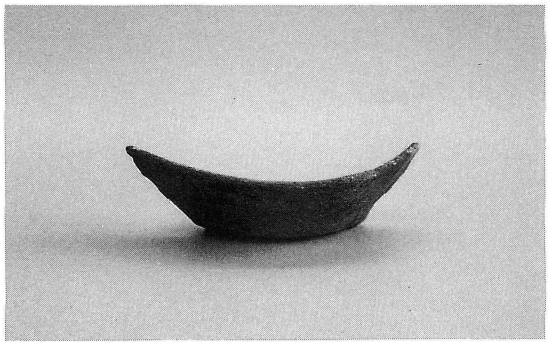


H－1－1

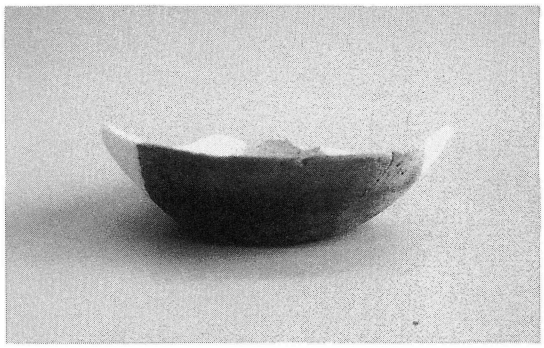


H－3カ1

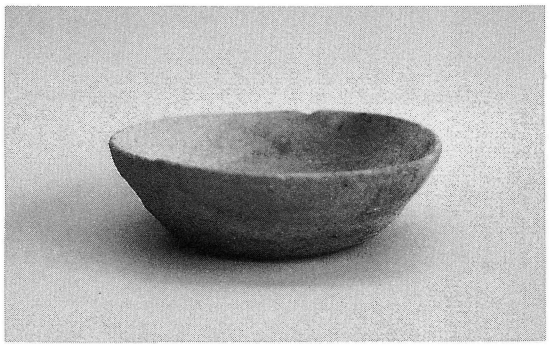
H－5－1



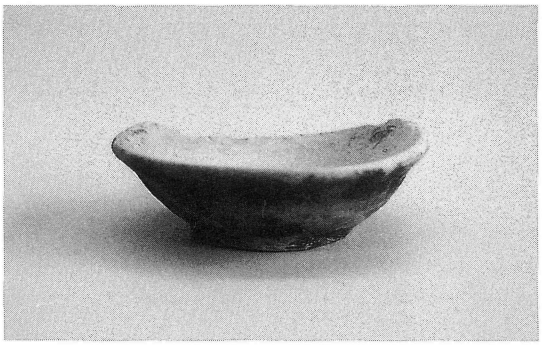
H－7－1



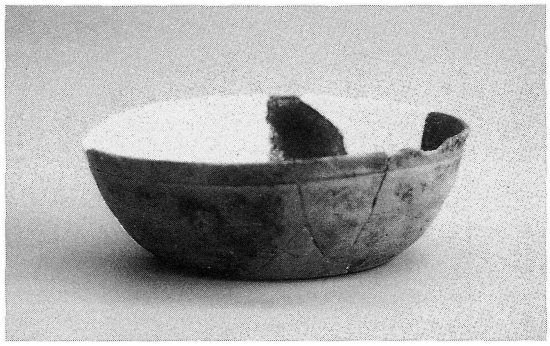
H－8－1



H－8－2

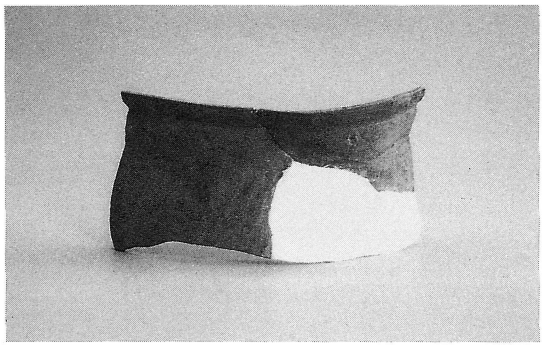


H－8－3

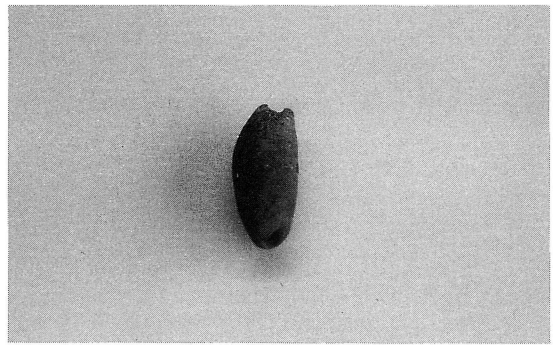


H－9－1

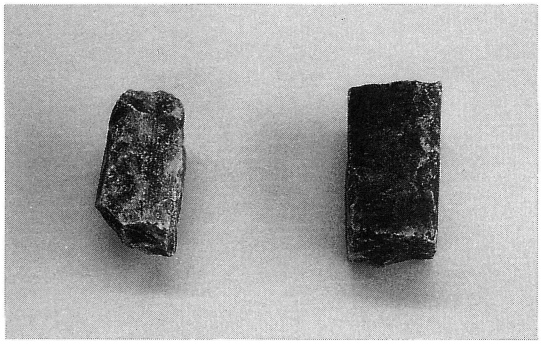
図版　6



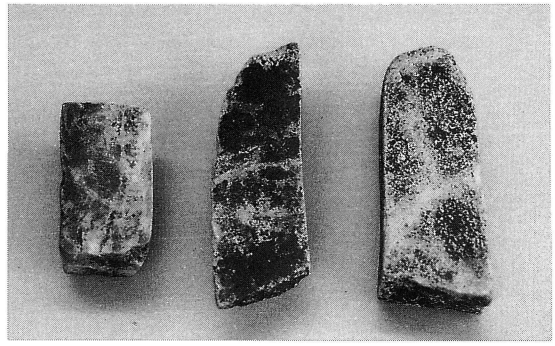
H－１１－１



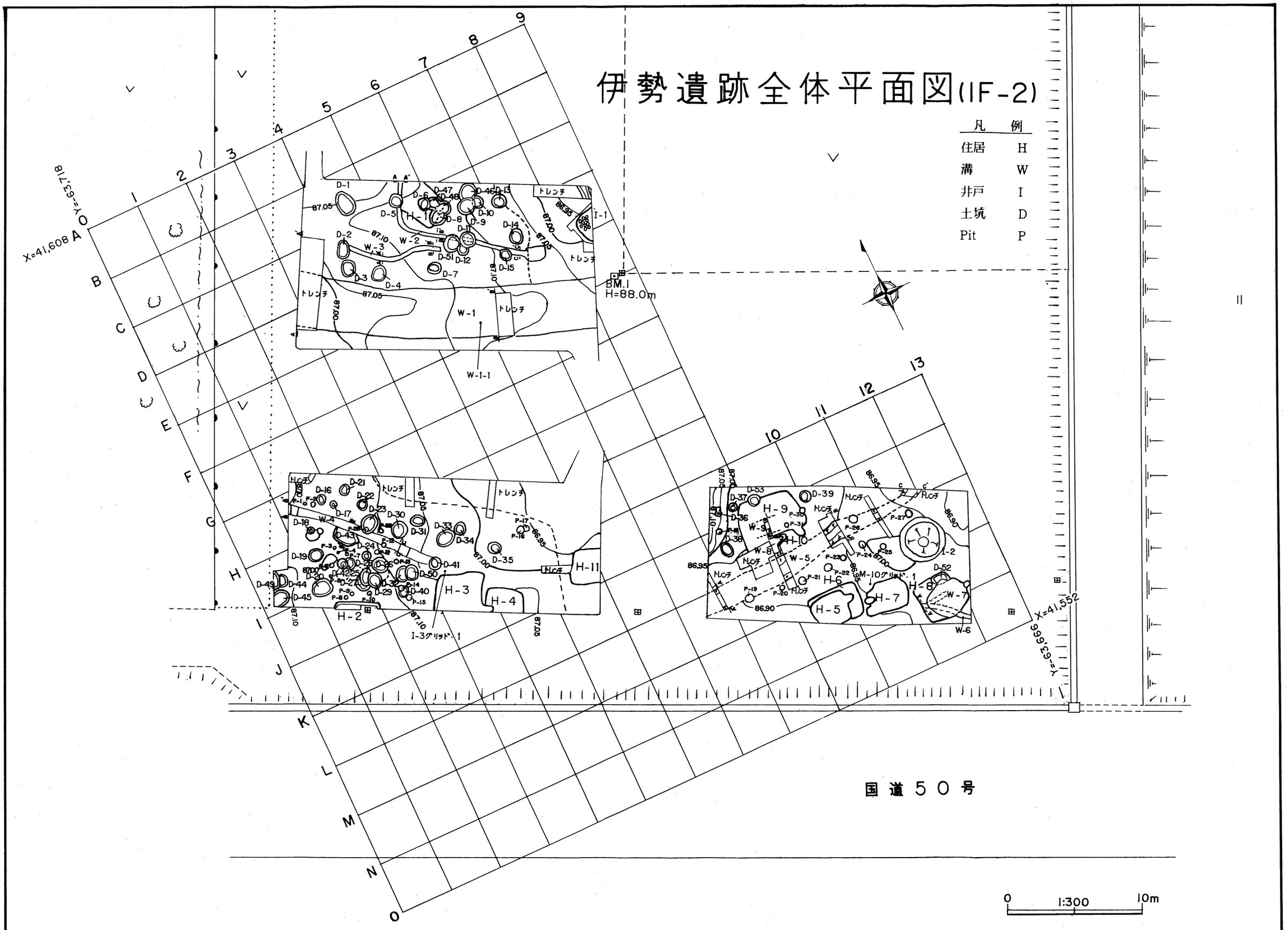
M－１０グリッド　１



Ｉ －２一括 2　　Ｉ －２一括 1



W-1-1　　W-4一括　　I-3ｸﾞﾘｯﾄﾞ 1


伊勢遺跡全体平面図(IF-2)
凡例
住居 H
溝 W
井戸 I
土坑 D
Pit P
BM.1
H=88.0m
トレンチ
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
H-10
H-11
W-1
W-1-1
W-2
W-3
W-4
W-5
W-6
W-7
W-8
W-9
I-1
I-2
I-3グリッド.1
M-10グリッド.1
X=41,608
Y=-63,718
X=41,552
Y=-63,666
国道50号
0 1:300 10m

第23図

大胡町文化財蔵書印

開発行為（ｶﾞｿﾘﾝ・ｽﾀﾝﾄﾞの建設）に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

伊　勢　遺　跡

群馬県前橋市

平成３年３月２５日　印刷
平成３年３月３０日　発行

発行者　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町６６４番地の４

編　集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町２１１番地の１

印　刷　有限会社サクラヤ印刷所
前橋市石倉町一丁目５番７号